

AV レシーバー

RX-V381

取扱説明書

ご使用前に本書の「安全上のご注意」（２～５ページ）を必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。
- 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

この製品には、本書のほかに「かんたん設置ガイド」が付属しています。はじめに「かんたん設置ガイド」をご覧ください。

本書および「かんたん設置ガイド」は下記のウェブサイトから PDF 版をダウンロードできます。

<http://download.yamaha.com/jp/>

保証書別添付

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



「ご注意ください」という注意喚起を示します。



「～しないでください」という「禁止」を示します。



「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。



警告

電源 / 電源コード



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。
万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。
- 異常に高温になる。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

- 電源コードを傷つけない。
- 重いものを上に載せない。
 - ステープルで止めない。
 - 加工をしない。
 - 熱器具には近づけない。
 - 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず実行

必ず AC100V (50/60Hz) の電源電圧で使用する。
それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池



禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。



禁止

電池を加熱・分解したり、直射日光にさらしたり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

分解禁止



分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。

修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
 - 加湿器を過度にきかせた部屋
 - 雨や雪、水がかかるところ
- 水の混入により、火災や感電の原因になります。



禁止

放熱のため本機を設置する際には：

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
- 仰向けや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

(本機の周囲に左右 20cm、上 30cm、背面 20cm 以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

設置



禁止

医療機関の屋内など医療機器の近くで使用しない。
電波が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。



必ず実行

心臓ペースメーカーの装着部位から 22 cm 以上離して使用する。

本機が発生する電波により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。



必ず実行

十分な耐荷重強度のある、水平で安定した場所に設置する。

傾斜面や、水平でないところ、カーペット、畳などの安定しない面や変形する面などに設置しないでください。

使用上の注意



禁止

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

火災や感電の原因になります。



必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。



禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。

接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

お手入れ



必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。


注意

電源 / 電源コード



必ず実行

本機を主電源から完全に切り離すには、電源プラグをコンセントから抜く。

本体の  ボタンでスタンバイ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。



プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。



禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っばらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池



必ず実行

電池は極性表示（プラス＋とマイナス－）に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



必ず実行

長時間使用しない場合は、電池を電池ケースから抜いておく。
電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本機を損傷するおそれがあります。



必ず実行

電池は幼児の手の届かない所に保管する。
口に入れたりすると危険です。



必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外し、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

設置



禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。



禁止

おおむけや横倒しには設置しない。
故障やけがの原因となることがあります。

設置



必ず実行

必ず2人以上で開梱や持ち運びをする。
重いので、けがの原因になります。



禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。



禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。



必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。



禁止

他の電気製品を本機の上に置かない。
本機の上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。



必ず実行

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。



必ず実行

機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。
突然大きな音が出たり、感電したりすることがあります。

移動



必ず実行

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意



禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。



禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



禁止

環境温度が急激に変化する場所では使用しない。
本機に結露が発生することがあります。正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。



禁止

業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

お手入れ



必ず実行

お手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。



禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。



必ず実行

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に相談する。
ほこりがたまったまま使用続けると、火災や故障の原因になることがあります。

リモコン



禁止

水やお茶などの液体をこぼさない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。感電の原因になります。



禁止

落としたり、強い衝撃を与えたりしない。
故障の原因になります。



禁止

下記のような場所に置かない。

- 風呂場の近くなど、湿度が高いところ
 - 暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ。
 - 極端に寒いところ
 - ほこりの多いところ
- 火災や故障の原因になります。

Bluetooth® について

- Bluetooth とは、2.4GHz 帯の電波を利用して、対応する機器と無線で通信を行うことができる技術です。

Bluetooth® 通信の取り扱いについて

- Bluetooth 対応機器が使用する 2.4 GHz 帯は、さまざまな機器が使用する周波数帯です。
Bluetooth 対応機器は、同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。
- すべての Bluetooth 機能対応機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

本機の無線方式について

2.4FH1

「2.4」..... 2.4Ghz 帯を使用する無線設備
「FH」..... 変調方式は周波数ホッピング（FH-SS 方式）
「1」..... 想定干渉距離が 10m 以内

....全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可

本機は、電波法に基づく技術基準適合証明を受けた無線機器を搭載していますので、無線局の免許は不要です。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

目次

ご使用になる前に 9

付属品を確認する	9
本書について	9
リモコンについて	9
リモコンに電池を入れる.....	9
リモコンの操作範囲.....	9

本機の特長 10

本機でできること	10
AV SETUP GUIDE について	11

各部の名称 12

前面.....	12
前面ディスプレイ（インジケーター）.....	13
背面.....	14
リモコン.....	15

準備する 16

使用までの基本的な流れ.....	16
1 スピーカーを配置する	17
標準的なスピーカー配置.....	17
その他のスピーカー配置.....	18
2 スピーカーを接続する	19
3 テレビや再生機器を接続する	20
入出力端子とケーブル	20
映像信号の流れ	20
テレビ	21
BD/DVD プレーヤー	22
衛星放送 / ケーブルテレビのチューナー、ゲーム機、その他のビデオ機器	22
CD プレーヤー、MD プレーヤー.....	23
レコードプレーヤー	23
携帯音楽プレーヤー	23
4 FM/AM アンテナを接続する	24
5 電源コードを接続する	24
6 スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）.....	25
ステップ 1: 測定の準備をする	25
ステップ 2: 測定を始める	26
ステップ 3: 結果を確認・保存する.....	26
エラーメッセージ	27
警告メッセージ	28

再生する

29

再生の基本操作	29
映像コンテンツや音楽を再生する	29
前面ディスプレイの表示を切り替える	29
入力と設定をワンタッチで切り替える（シーン機能）	30
登録したシーンを呼び出す	30
シーン機能の登録内容を変更する	30
好みのサウンドを選ぶ	31
音場効果を楽しむ（シネマ DSP）	32
音場効果をかけずに再生する	34
低音を増強する（エクストラベース）	35
圧縮フォーマット（MP3 など）を厚みのある音で再生する（ミュージックエンハンサー）	35
FM/AM ラジオを聴く	36
周波数を指定して選局する	36
登録したラジオ局を選ぶ	36
ラジオ局を自動で登録する（オートプリセット）	37
ラジオ局を手動で登録する	37
ラジオ局の登録を解除する	38
Bluetooth® 機器の曲を聴く	39
Bluetooth 機器を接続する（ペアリング）	39
Bluetooth 機器の曲を再生する	40
Bluetooth 機器との接続を切断する	40
再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー）	41
オプションメニューの操作方法	41
オプションメニューでできること	41
入力切替（Input Select）	42
トーンコントロール（Tone Control）	42
DSP/ サラウンド（DSP/Surround）	42
再生レベル補正（Volume Trim）	43
リップシンク設定（Lipsync）	43
信号情報（Signal Info）	43
音声入力（Audio In）	44
映像選択（Video Out）	44
FM モード（FM Mode）	44

設定する

45

詳細機能を設定する（設定メニュー）	45
設定メニューの操作方法	45
設定メニューでできること	46
スピーカー設定	48
HDMI 設定	51
音声設定	53
エコ設定	55
ファンクション設定	56
言語設定	58
システム設定を変更する（アドバンスドセットアップメニュー）	59
アドバンスドセットアップメニューの操作方法	59
アドバンスドセットアップメニューでできること	59
リモコン ID の設定（REMOTE ID）	59
ビデオ信号方式の変更（TV FORMAT）	60
HDMI 4K 信号のフォーマット設定（4K MODE）	60
設定の初期化（INIT）	60
ファームウェアバージョンの確認（VERSION）	60

付録

61

こんな場合の解決方法	61
故障かな？と思ったら	63
電源 / システム / リモコン	63
音声	64
映像	65
FM/AM ラジオ	66
Bluetooth®	66
前面ディスプレイのエラー表示	68

用語 / 技術解説	69
音声に関する用語	69
HDMI/ 映像に関する用語	70
ヤマハテクノロジー	70
対応している機器	71
対応機器.....	71
HDMI について	71
HDMI コントロール	71
オーディオリターンチャンネル (ARC)	72
本機が対応している HDMI 信号	73
商標	74
主な仕様	75
索引	77

ご使用になる前に

付属品を確認する

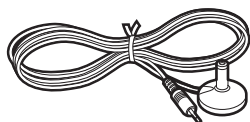
はじめに付属品がすべて揃っていることを確かめください。

☐ AM アンテナ

☐ FM アンテナ



☐ YPAO 用マイク



☐ リモコン

☐ 単 4 乾電池 (2 本)

☐ かんたん設置ガイド

☐ 取扱説明書 (本書)


本書について

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本書は付属のリモコンによる操作を主として説明しています。

本書で使用されている記号

 使用時の注意点や機能の制約が記載されています。

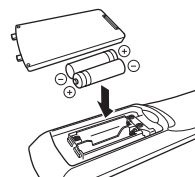
 知っておくと便利な補足情報が記載されています。

リモコンについて

付属のリモコンについて説明します。

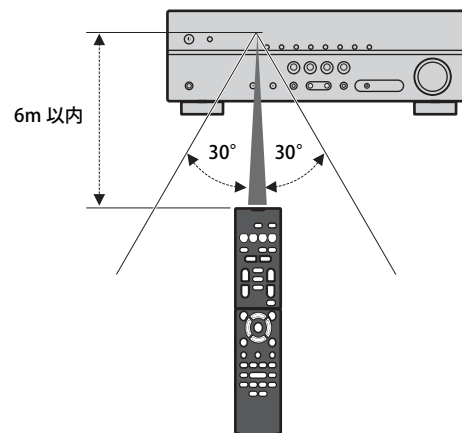
リモコンに電池を入れる

正しい向き (+ と -) でリモコンに入れてください。



リモコンの操作範囲

本体のリモコン信号受光部に向け、以下の範囲内で操作してください。



本機の特長

本機でできること

本機の主な機能を説明します。

・2 ～ 5.1 チャンネルのスピーカーシステムに対応、さまざまなスタイルでお好みの音響空間を満喫→ 17ページ

使用するスピーカーの本数に応じて最適な音響空間を実現します。

・部屋に合わせてスピーカー設定をかんたん自動調整（YPAO）→ 25ページ

付属の YPAO 用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します。

・入力と設定をワンタッチで切り替え（シーン機能）→ 30ページ

シーン機能を使うと、入力選択と同時に、あらかじめ登録した内容（音場プログラム、ミュージックエンハンサーの有効 / 無効）をワンタッチで選ぶことができます。

・ステレオ音声やマルチチャンネル音声を映画館やコンサートホールさながらのリアルな音場で再現（シネマ DSP）→ 32ページ

本機には、ヤマハ独自の音場技術を使った各種の音場プログラムが備わっています。これにより、映画館やコンサートホールさながらのリアルな音場を簡単に再現できます。

・圧縮オーディオもダイナミックに再生（ミュージックエンハンサー）→ 35ページ

ミュージックエンハンサーを使うと、音に深みと広がりを加え、圧縮前の原音のようなダイナミックな再生音を楽しめます。

・4K Ultra HD 信号および HDCP 2.2 に対応

本機は著作権保護技術 HDCP2.2 に対応し、4K 映像などプレミアムコンテンツの再生をお楽しみになれます。

・エコモードにより消費電力を節約、環境にやさしいホームシアターを実現→ 55ページ

エコモードを有効 / 無効にする設定が可能です。有効にすると、本機の消費電力を低減できます。

・テレビ、AV レシーバー、BD/DVD レコーダーを連動操作（HDMI コントロール）→ 71ページ

HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます。また HDMI コントロール対応の BD/DVD レコーダーなども操作できます。

・Bluetooth 機器の曲を再生→ 40ページ

Bluetooth 機器の曲を本機で再生できます。

AV SETUP GUIDE について



「AV SETUP GUIDE」は AV レシーバーとプレーヤーなどの再生機器とのケーブル接続や、AV レシーバーの設定を簡単に行うためのアプリです。スピーカー接続やテレビ・再生機器の接続などのさまざまな設定をガイドしながら進めます。

主な機能

1) 接続ガイド機能

- スピーカー接続
- テレビ / 再生機器接続

2) 設定ガイド機能

- 図・イラストによる各種設定サポート
- YPAO の測定ガイド

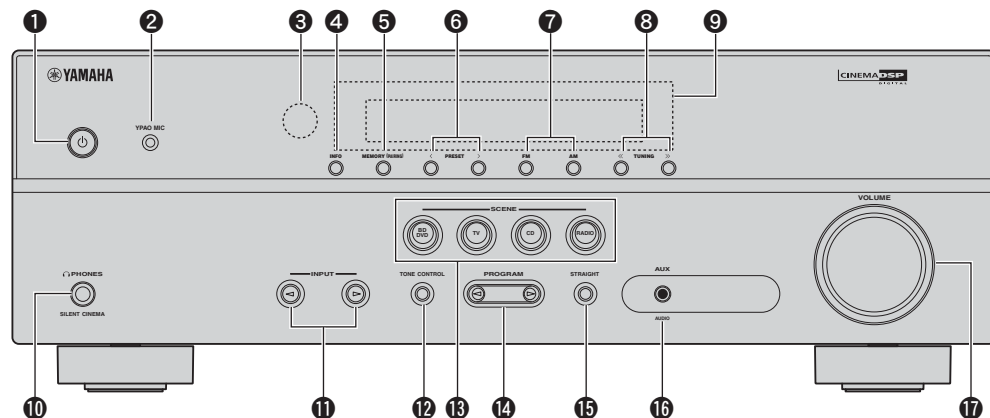
3) 取扱説明書の参照機能

※ 本アプリはタブレット専用です。

詳しくは App Store または Google Play ™ で「AV SETUP GUIDE」を検索してください。

各部の名称

前面



① 電源（電源）キー

電源を入/切（スタンバイ）します。

② YPAO MIC（YPAO マイク）端子

付属の YPAO 用マイクを接続します（25ページ）。

③ リモコン信号受光部

リモコンの信号を受信します（9ページ）。

④ INFO（インフォ）キー

前面ディスプレイの表示を切り替えます（29ページ）。

⑤ MEMORY（PAIRING）（メモリー［ペアリング］）キー

FM/AM ラジオ局をプリセット（登録）します（37ページ）。
3 秒間押し続けると、Bluetooth 機器とのペアリングを開始します（39ページ）。

⑥ PRESET（プリセット）キー

プリセットした FM/AM ラジオ局を選びます（36ページ）。

⑦ FM/AM キー

FM/AM を切り替えます（36ページ）。

⑧ TUNING（チューニング）キー

ラジオ周波数を切り替えます（36ページ）。

⑨ 前面ディスプレイ

各種情報が表示されます（13ページ）。

⑩ PHONES（フォーンズ）端子

ヘッドホンを接続します。

⑪ INPUT（インプット）キー

入力を切り替えます。

⑫ TONE CONTROL（トーンコントロール）キー

出力される音声の高音域と低音域のバランスを調節します（42ページ）。

⑬ SCENE（シーン）キー

登録した入力、音場プログラムをワンタッチで選びます（30ページ）。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。

⑭ PROGRAM（プログラム）キー

音場プログラムやサラウンドデコーダーを選びます（31ページ）。

⑮ STRAIGHT（ストレート）キー

ストレートデコードを有効 / 無効にします（34ページ）。

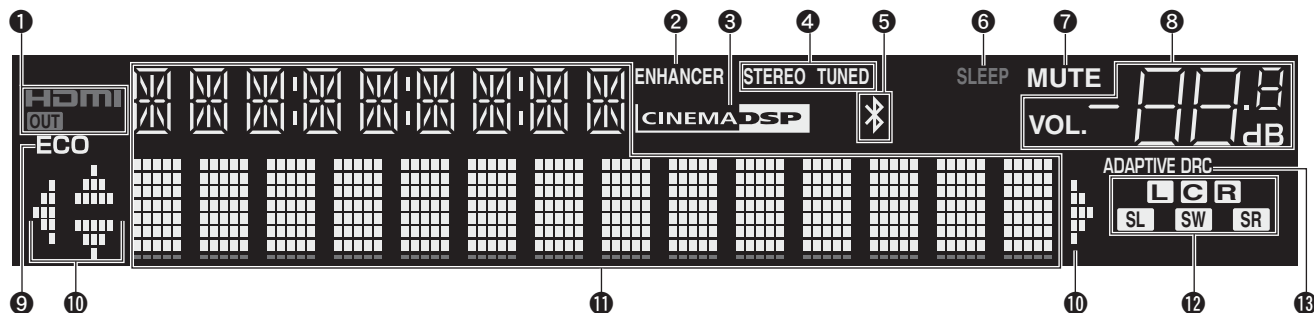
⑯ AUX 端子

携帯音楽プレーヤーなどの機器を接続します（23ページ）。

⑰ VOLUME（ボリューム）つまみ

音量を調節します。

前面ディスプレイ（インジケーター）



① HDMI

HDMI 信号入力 / 出力時に点灯します。

OUT (アウト)

HDMI 信号出力時に点灯します。

② ENHANCER (エンハンサー)

ミュージックエンハンサー（35ページ）が機能しているときに点灯します。

③ CINEMA DSP (シネマ DSP)

シネマ DSP（32ページ）が機能しているときに点灯します。

④ STEREO (ステレオ)

ステレオ放送受信時に点灯します。

TUNED (チューンド)

FM/AM ラジオ受信時に点灯します。

⑤ BLUETOOTH (ブルートゥース)

Bluetooth 接続時に点灯します（39ページ）。

⑥ SLEEP (スリープ)

スリープタイマー設定時に点灯します。

⑦ MUTE (ミュート)

ミュートが機能しているときに点滅します。

⑧ 音量表示

音量を表示します。

⑨ ECO (エコ)

エコモード（55ページ）が有効になっているときに点灯します。

⑩ カーソル表示

操作可能なリモコンのカーソルキーを表示します。

⑪ 情報ディスプレイ

選択中の入力や音場プログラムなど、ステータス情報が表示されます。INFO キーで表示する情報を選べます（29ページ）。

⑫ スピーカー表示

音声を出力しているスピーカー端子を表示します。

L フロントスピーカー（左）

R フロントスピーカー（右）

C センタースピーカー

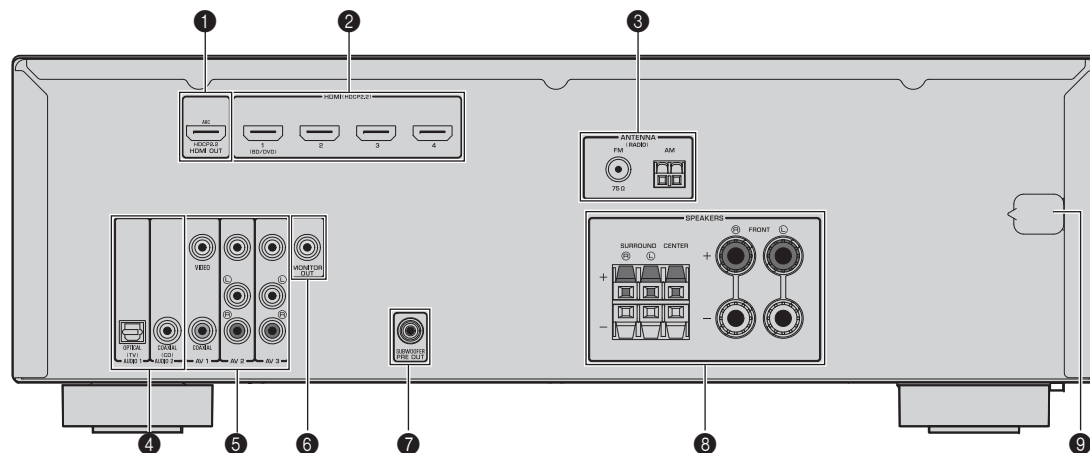
SL サラウンドスピーカー（左）

SR サラウンドスピーカー（右）

SW サブウファー

⑬ ADAPTIVE DRC (アダプティブ DRC)

アダプティブ DRC（42ページ）が機能しているときに点灯します。



• 実際の製品では、誤接続を防ぐため映像 / 音声出力端子の周辺が白色で塗られています。

① HDMI OUT (HDMI アウト) 端子

HDMI 入力対応のテレビを接続し、映像 / 音声を出力します (20ページ)。ARC 使用時は、HDMI OUT 端子でテレビ音声の入力も可能です。

② HDMI 1 ~ 4 端子

HDMI 出力対応の再生機器を接続し、映像 / 音声を入力します (22ページ)。

③ ANTENNA (アンテナ) 端子

FM アンテナと AM アンテナを接続します (24ページ)。

④ AUDIO1 ~ 2 (オーディオ) 端子

デジタル音声出力を持つ再生機器を接続し、音声を入力します (23ページ)。

⑤ AV1 ~ 3 端子

映像 / 音声出力を持つ再生機器を接続し、映像 / 音声を入力します (22ページ)。

⑥ MONITOR OUT (モニターアウト) 端子

コンポジットビデオ入力対応のテレビを接続し、映像を出力します (20ページ)。

⑦ SUBWOOFER PRE OUT (サブウーファープリアウト) 端子

アンプ内蔵のサブウーファーを接続します (19ページ)。

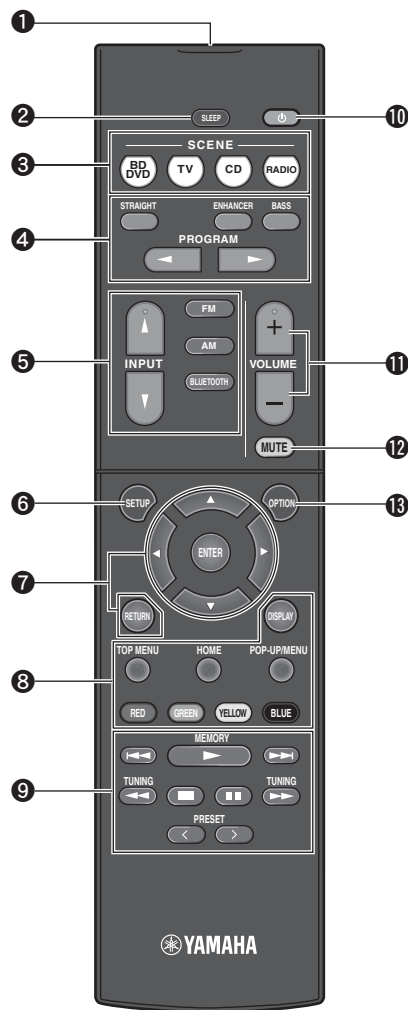
⑧ SPEAKERS (スピーカー) 端子

スピーカーを接続します (19ページ)。

⑨ 電源コード

電源コードのプラグをコンセントに接続します (24ページ)。

リモコン



① リモコン信号送信部

赤外線を送信します。

② SLEEP（スリープ）キー

繰り返し押してスリープタイマーの時間（120 分、90 分、60 分、30 分、切）を設定します。スリープタイマー設定中は前面ディスプレイに「SLEEP」が点灯します。指定した時間が経過すると本機がスタンバイになります。

③ SCENE（シーン）キー

登録した入力、音場プログラムをワンタッチで選びます（30ページ）。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。

④ サウンド選択キー

音場プログラムやサラウンドデコーダーなどを選びます（31ページ）。

⑤ 入力選択キー

再生する入力を選びます。

⑥ SETUP（セットアップ）キー

設定メニューを表示します（45ページ）。

⑦ メニュー操作キー

カーソルキー メニューや設定値を選びます。

ENTER キー 選択項目を決定します。

RETURN キー メニュー操作中に、1 つ前の表示に戻します。

⑦⑧⑨ 外部機器操作キー

HDMI コントロールに対応している再生機器の再生操作を行います。



・ HDMI コントロールに対応している再生機器が対象です。ただし、すべての HDMI コントロール対応機器の動作を保証するものではありません。



・ RED、GREEN、YELLOW、BLUE の各キーは、本機の機能に割り当てることができます（57ページ）。

⑨ ラジオキー

入力が「TUNER」のときに FM/AM ラジオを操作します（36ページ）。

MEMORY キー FM/AM ラジオ局をプリセット（登録）します。

PRESET キー プリセットしたFM/AMラジオ局を選びます。

TUNING キー ラジオ周波数を切り替えます。

⑩ 〇（レシーバー電源）キー

本機の電源を入 / 切（スタンバイ）します。

⑪ VOLUME（ボリューム）キー

音量を調節します。

⑫ MUTE（ミュート）キー

消音します。

⑬ OPTION（オプション）キー

オプションメニューを表示します（41ページ）。

準備する

使用までの基本的な流れ

- 1 スピーカーを配置する (17ページ)
- 2 スピーカーを接続する (19ページ)
- 3 テレビや再生機器を接続する (20ページ)
- 4 FM/AM アンテナを接続する (24ページ)
- 5 電源コードを接続する (24ページ)
- 6 スピーカー設定を自動で調整する (YPAO) (25ページ)

1 スピーカーを配置する

使用するスピーカーの本数に応じてシステムを決定し、各スピーカーおよびサブウーファーを部屋に配置します。本書では例として、代表的な配置方法を説明します。

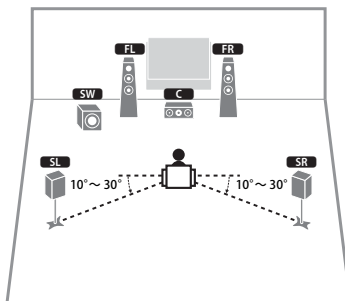
注意

- ・スピーカーはインピーダンスが 6Ω 以上のものをお使いください。
- ・サブウーファーはアンプ内蔵のものをお使いください。
- ・フロントスピーカー（左 / 右）は必ず接続してください。

標準的なスピーカー配置

■ 5.1 チャンネルシステム

本機の能力を最大限に発揮させるために、おすすめする配置方法です。



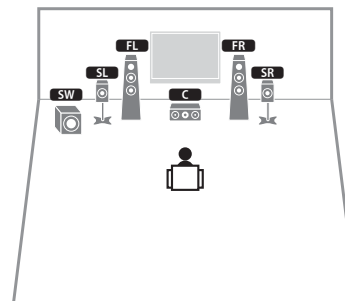
スピーカーの種類	種類	機能
フロント（左 / 右）	FL / FR	フロント左 / 右チャンネルの音声（ステレオ音声）を出力します。
センター	C	センターチャンネルの音声、映画のセリフ / ボーカルなど、画面中央に位置する音声を出力します。
サラウンド（左 / 右）	SL / SR	サラウンド左 / 右チャンネルの音声を出力します。
サブウーファー	SW	LFE（低域効果音）チャンネルの音声や、フロントやサラウンドチャンネルなどの低音を出力します。



- ・センタースピーカーがない 4.1 チャンネルシステムでも、サラウンド再生を楽しめます。
- ・サブウーファーは左右どちらに置いてかまいません。

■ 5.1 チャンネルシステム（バーチャルシネマフロント）

部屋の後方にスピーカーを置けない場合に、おすすめする配置方法です。



スピーカーの種類	種類	機能
フロント（左 / 右）	FL / FR	フロント左 / 右チャンネルの音声（ステレオ音声）を出力します。
センター	C	センターチャンネルの音声、映画のセリフ / ボーカルなど、画面中央に位置する音声を出力します。
サラウンド（左 / 右）	SL / SR	サラウンド左 / 右チャンネルの音声を出力します。このスピーカーシステムではフロントスピーカーの横に配置します。
サブウーファー	SW	LFE（低域効果音）チャンネルの音声や、フロントやサラウンドチャンネルなどの低音を出力します。



- ・このスピーカーシステムを有効にするには、設定メニューの「バーチャルシネマフロント」（49ページ）を「オン」に設定してください。

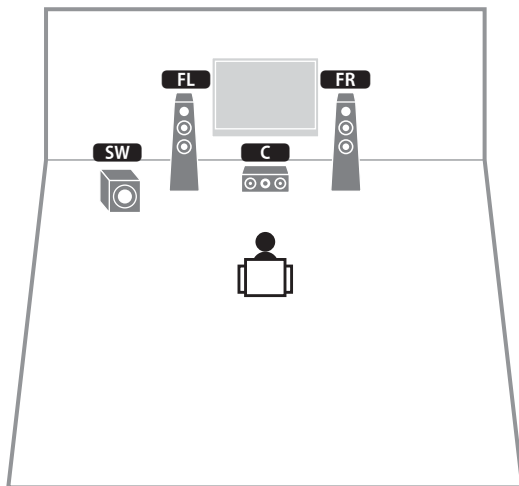


- ・センタースピーカーがない 4.1 チャンネルシステムでも、サラウンド再生を楽しめます。
- ・サブウーファーは左右どちらに置いてかまいません。

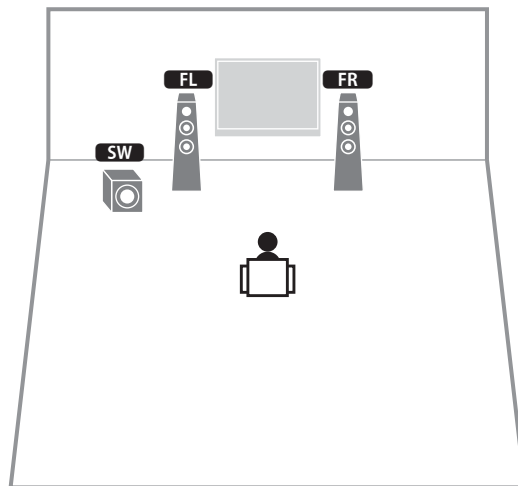
その他のスピーカー配置

以下のようなスピーカー配置も可能です。

■ 3.1 チャンネルシステム



■ 2.1 チャンネルシステム



2 スピーカーを接続する

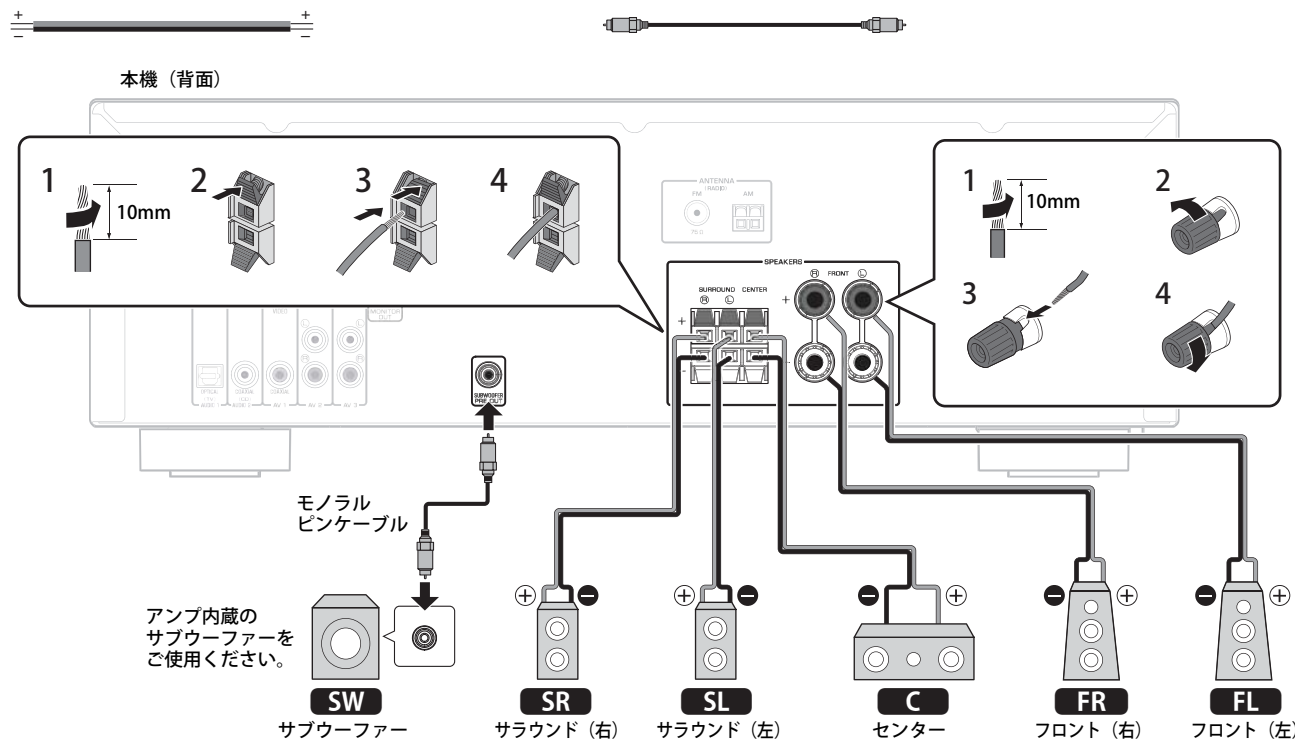
イラストを参考に部屋に配置したスピーカーを本機に接続します。ここでは例として、5.1 チャンネルシステムの接続図を記載しています。これ以外は 5.1 チャンネルシステムの接続図を参考に、配置したスピーカーを接続してください。

注意

- ・スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。また、サブウーファーの電源を切ってください。
- ・スピーカーには極性（+と-）があります。本機とスピーカーの+および-端子どうしを正しく接続してください。

必要なケーブル（市販品）

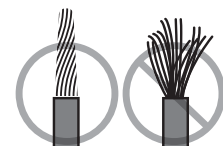
- ・スピーカーケーブル（スピーカーの本数分）
- ・モノラルピンケーブル（1本：サブウーファー接続用）



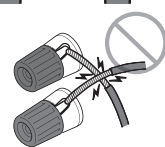
スピーカーケーブル接続のご注意

正しくない方法で接続すると、スピーカーケーブルがショートし、本機やスピーカーが故障する原因となります。

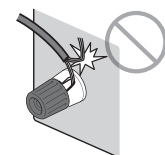
- ・芯線の手先をしっかりとよじる



- ・芯線どうしを接触させない



- ・芯線を本機の金属部（背面のパネル、ネジ）に接触させない




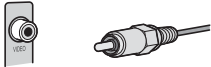




電源を入れて前面ディスプレイに「Check SP Wires」と表示された場合は、電源を切り、スピーカーケーブルがショートしていないか確認してください。

3 テレビや再生機器を接続する

本機にテレビや再生機器を接続します。Bluetooth 機器の接続については「Bluetooth 機器を接続する（ペアリング）」（39ページ）をご覧ください。

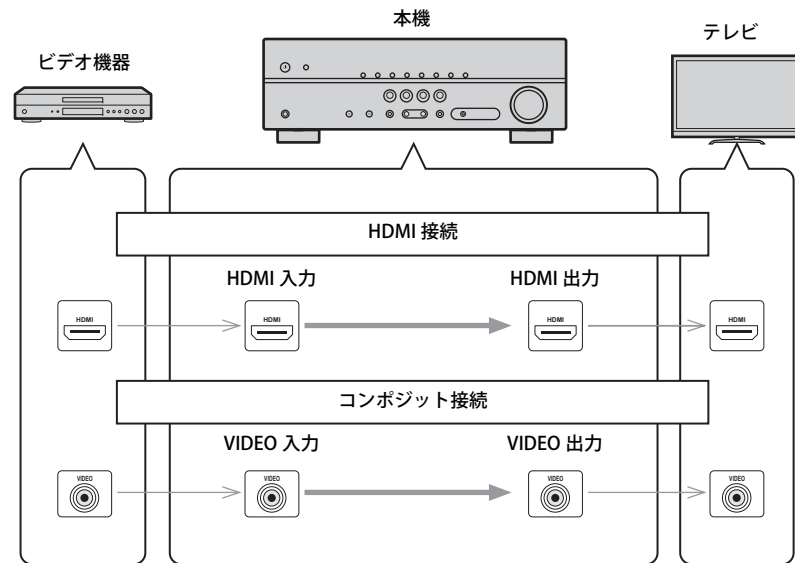
入出力端子とケーブル

本機は以下の入出力端子を装備しています。接続する外部機器側の端子に合わせて、必要なケーブルをご用意ください。

映像	音声
HDMI 端子 - HDMI ケーブル  <ul style="list-style-type: none"> ・ HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル（19 ピン）をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、長さが 5.0 メートル以下のケーブルをおすすめします。 ・ 3D 映像、4K Ultra HD 映像をお楽しみになる場合は、ハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。 	
VIDEO 端子 - 映像用ピンケーブル 	OPTICAL 端子 - 光デジタルケーブル  ケーブルの先端にキャップが付いている場合は、取り外してからお使いください。
	COAXIAL 端子 - 同軸デジタルケーブル 
	AUDIO 端子 ステレオ L/R 端子 - ステレオピンケーブル  ステレオミニ端子 - ステレオミニプラグケーブル 

映像信号の流れ

ビデオ機器から本機に入力された映像信号は、以下のようにテレビに出力されます。

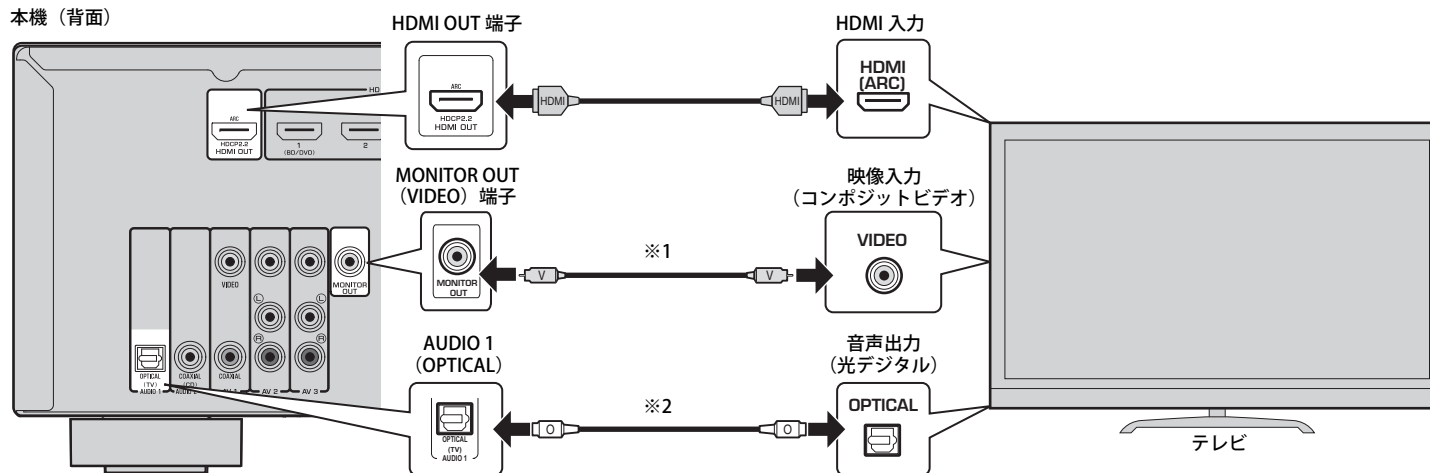


- ・ ビデオ機器とテレビの両方を同じ種類のケーブルで本機と接続してください。
- ・ 本機のメニュー画面は HDMI 接続した TV にのみ表示されます。

テレビ

テレビと本機を接続して、本機に入力された映像をテレビに出力します。また、テレビ番組の音声を本機で楽しむこともできます。

本機の性能を最大限に活かすために、HDMI ケーブルを使って接続することをおすすめします。



※1 ビデオ機器を本機に映像用ピンケーブルで接続（コンポジット接続）する場合は、テレビと本機も映像用ピンケーブルで接続します。

※2 光デジタルケーブルはテレビの音声を本機で再生するために接続します。以下のような場合には、光デジタルケーブルを接続する必要はありません。

- 本機とテレビを HDMI ケーブルで接続し、お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応している場合
- テレビ番組を衛星チューナーなどで視聴する（テレビ内蔵のチューナーを使用しない）場合

■ HDMI 接続について

テレビが HDMI コントロールに対応している場合、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます。

HDMI コントロールや ARC を使うには、あらかじめ設定が必要です。詳しくは「HDMI について」（71ページ）をご覧ください。

オーディオリターンチャンネル（ARC）とは

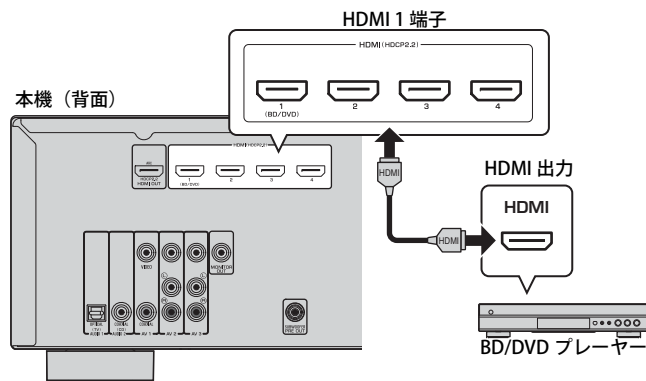
- 1 本の HDMI ケーブルで双方向の音声信号伝送が可能になります。テレビが ARC に対応している場合、本機からテレビに映像を伝送している HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力することができます。
- ARC を使う場合は、ARC 対応の HDMI ケーブルでテレビと本機を接続してください。



- 本機で、4K（60Hz/50Hz）信号を 4:4:4、4:2:2 または 4:2:0 フォーマットで入出力する場合は、アドバンスドセットアップメニューの「HDMI 4K 信号のフォーマット設定（4K MODE）」（60ページ）で「4K MODE」を「MODE 1」に設定してください。

BD/DVD プレーヤー

HDMI ケーブルを使って、BD/DVD プレーヤーを本機の HDMI1 端子に接続します。

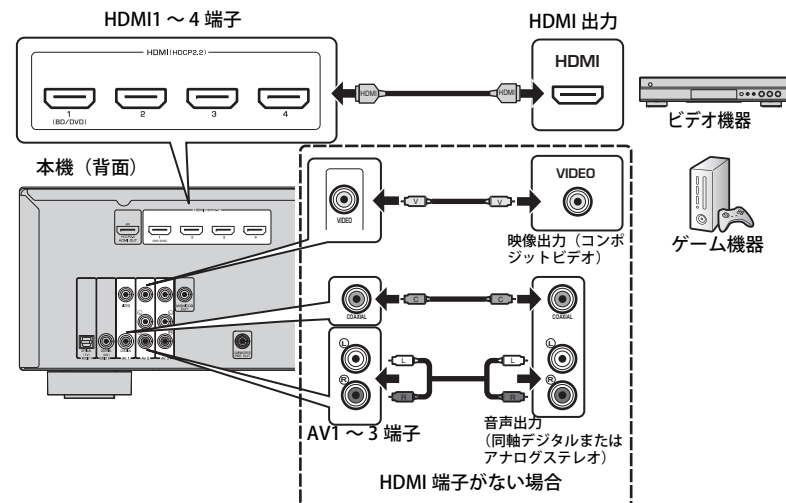


- HDMI 以外の接続方法については、「衛星放送 / ケーブルテレビのチューナー、ゲーム機、その他のビデオ機器」(22ページ)をご覧ください。
- HDMI12 ~ 4 端子にも接続できます。その場合は、必要に応じて SCENE キー (BD/DVD) に登録された入力を変更してください。(30ページ)

衛星放送 / ケーブルテレビのチューナー、ゲーム機、その他のビデオ機器

衛星放送 / ケーブルテレビのチューナーやゲーム機、その他のビデオ機器を本機に接続します。

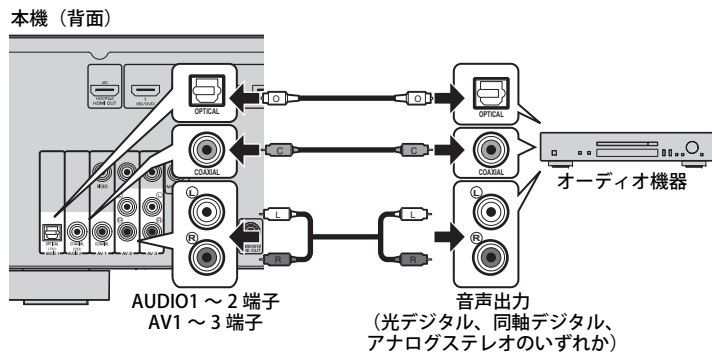
機器に HDMI 出力端子がある場合は、HDMI 接続をおすすめします。



- 本機の入力端子（映像 / 音声）の組み合わせがビデオ機器と合わない場合は、本機の入力端子の組み合わせを、ビデオ機器の出力端子にあわせて変更してください（44ページ）。

CD プレーヤー、MD プレーヤー

CD プレーヤー、MD プレーヤーなどのオーディオ機器を本機に接続します。



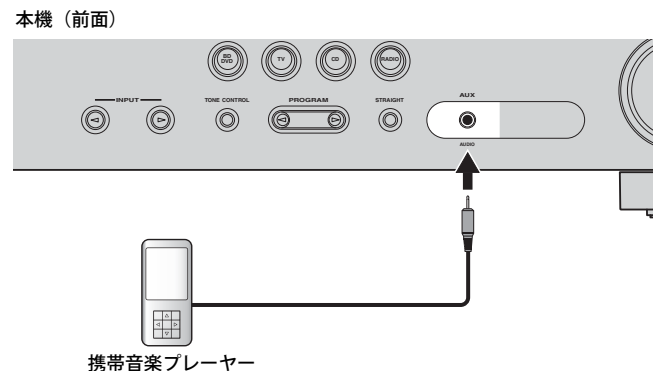
レコードプレーヤー

レコードプレーヤーを本機に接続する場合は、フォノイコライザーアンプ（市販品）が必要です。フォノイコライザーアンプの出力を本機の AV2 または AV3 端子 (AUDIO) に接続してください。

携帯音楽プレーヤー

携帯音楽プレーヤーなどの機器を一時的に接続する場合は、前面の AUX 端子を利用すると便利です。

接続する前に、再生機器を停止して、本機の音量を十分に下げてください。



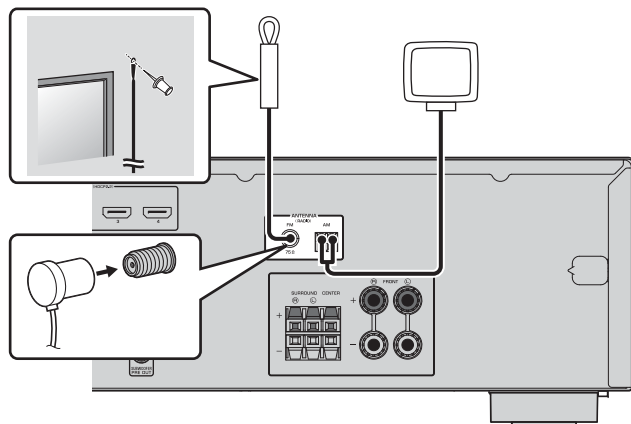
- 外部機器の音声出力端子に応じて、適切なケーブルをご用意ください。



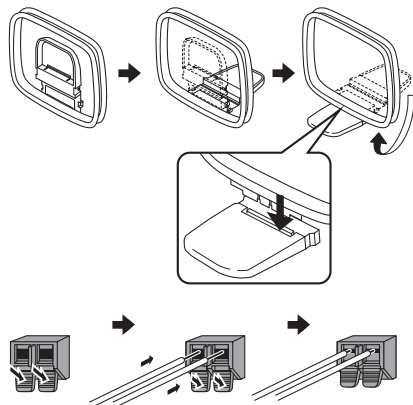
- Bluetooth 機器の接続については「Bluetooth 機器を接続する（ペアリング）」(39ページ) をご覧ください。

4 FM/AM アンテナを接続する

付属の FM アンテナと AM アンテナを接続します。



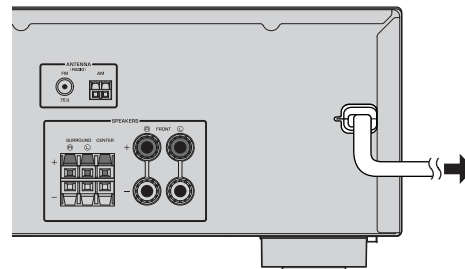
AM アンテナの組立と接続



• AM アンテナのコードに極性はありません。

5 電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。





6 スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)

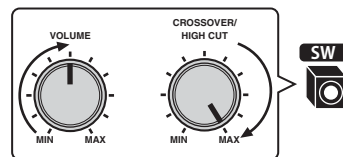
付属の YPAO 用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します (YPAO: Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer)。



- 5.1 チャンネルシステム (バーチャルシネマフロント) (17ページ) をご使用になる場合は、あらかじめ設定メニューの「バーチャルシネマフロント」(49ページ) を「オン」に設定してください。
- YPAO 使用時は次のことにご注意ください。
 - テレビやスピーカーの接続が終わってから YPAO を実行してください。
 - 測定中は大きな音が出力されます。小さなお子様がいらっしゃる場合は十分に配慮ください。
 - 測定中は音量を調節できません。
 - 測定中は部屋の後方の隅にとどまり、スピーカーと YPAO 用マイクの間を遮らないようにしてください。
 - ヘッドホンは接続しないでください。

ステップ 1: 測定の準備をする

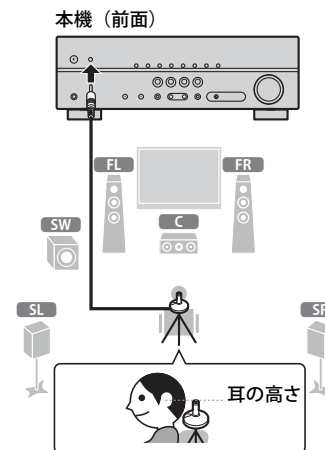
- 1 電源 (レシーバー電源) キーで本機の電源を入れる。
- 2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機 (HDMI OUT 端子) からの映像に切り替える。
- 3 サブウーファーの電源を入れ、音量を半分に調節する。クロスオーバー周波数を調節できる場合は最大にする。



- 4 付属の YPAO 用マイクを視聴位置 (耳の高さ) に置き、前面の YPAO MIC 端子に接続する。

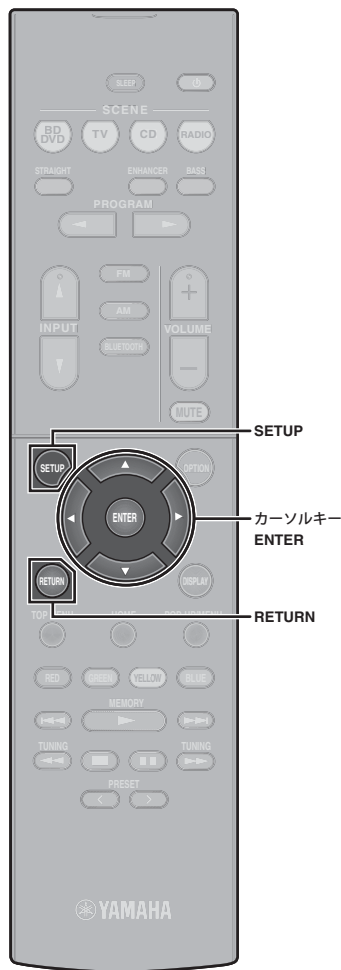


- 三脚などをマイクスタンドとしてお使いください。三脚のネジを使ってマイクを固定できます。



テレビに次の画面が表示されます。





ステップ 2: 測定を始める

- 1 カーソルキーで「スタート」を選び、ENTER キーを押す。
測定には約 3 分かかります。



- ・測定を一時中断するには、RETURN キーを押します。その後「エラーメッセージ」(27ページ) の操作を実行してください。

測定が終わると、テレビに次の画面が表示されます。



- ① スピーカーの本数 (前方 / 後方 / サブウーファー)
- ② スピーカーの距離 (最も近いスピーカー / 最も遠いスピーカー)
- ③ スピーカーの音量補正範囲
- ④ 警告メッセージ (発生時のみ)



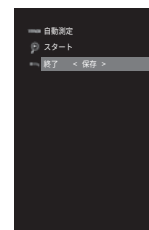
- ・エラーメッセージ (E-1 など) や警告メッセージ (W-1 など) が表示された場合は「エラーメッセージ」(27ページ) または「警告メッセージ」(28ページ) をご覧ください。



- ・警告メッセージの対象になっているスピーカーは、前面ディスプレイのスピーカー表示が点滅します。
- ・(前面ディスプレイでの操作時) 複数の警告メッセージが生じた場合は、カーソルキー (△/▽) で表示を切り替えて確認してください。

ステップ 3: 結果を確認・保存する

- 1 測定結果を確認し、ENTER キーを押す。
- 2 カーソルキー (◀/▶) で「保存」を選び、ENTER キーを押す。



補正されたスピーカー設定が反映されます。



- ・測定結果を保存せずに終了するには、「キャンセル」を選びます。

- 3 YPAO 用マイクを本機から取り外す。

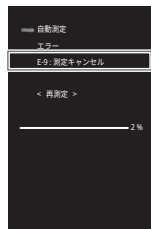
これでスピーカー設定は完了です。

注意

- ・YPAO 用マイクは熱に弱いため、高温になる場所 (AV 機器の上など) や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。

エラーメッセージ

測定中にエラーメッセージが表示された場合は、原因を解決してから YPAO を再度実行してください。



エラー
メッセージ

テレビ画面



前面ディスプレイ

■ エラーメッセージ表示後の操作

1 エラーメッセージの内容を確認し、ENTER キーを押す。

2 カーソルキー（</>）で目的の項目を選ぶ。

測定を終了する場合：

- ① 「終了」を選び、ENTER キーを押す。
- ② カーソルキー（△/▽）で「終了」を選び、ENTER キーを押す。
- ③ YPAO 用マイクを本機から取り外す。

再測定する場合：

「再測定」を選び、ENTER キーを押す。

現在の測定を続ける場合（E-5、E-9 のみ選択可）：

「続行」を選び、ENTER キーを押す。

エラーメッセージ	原因	対策
E-1: フロント SP 無し (E-1:NO FRNT SP)	フロントスピーカーを検出できない。	YPAO を終了してから、本機の電源を切り、該当スピーカーの接続を確認してください。
E-2: サラウンド SP 無し (E-2:NO SUR SP)	サラウンドスピーカーの片側を検出できない。	
E-5: 暗騒音大 (E-5:NOISY)	雑音が大きいため測定できない。	部屋が静かになってから再測定してください。「続行」を選んだ場合は、雑音を検出しても無視する条件で再測定します。
E-7: マイク未接続 (E-7:NO MIC)	測定中に YPAO 用マイクが外れた。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、再測定してください。
E-8: 信号入力無し (E-8:NO SIGNAL)	YPAO 用マイクがテストトーンを検出できない。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、再測定してください。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。
E-9: 測定キャンセル (E-9:CANCEL)	測定が中断された。	目的に応じて、再測定するか YPAO を終了してください。
E-10: 内部エラー (E-10:INTERNAL)	内部エラーが発生した。	YPAO を終了してから、本機の電源を入れ直してください。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

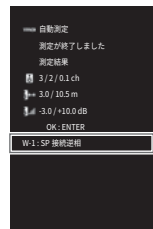


・ カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。

警告メッセージ

測定後に警告メッセージが表示されていても、測定結果を保存できます。

ただし、最適なスピーカー設定で使用するには、原因を解決してから YPAO を再度実行することをおすすめします。



警告
メッセージ

テレビ画面

警告メッセージの対象スピーカーが点滅



前面ディスプレイ

警告メッセージ表示後の操作

1 警告メッセージの内容を確認し、ENTER キーを押す。

2 カーソルキー（ \leftarrow/\rightarrow ）で目的の項目を選ぶ。

測定結果を保存する場合：

「保存」を選び、ENTER キーを押す。

測定結果を保存しない場合：

「キャンセル」を選び、ENTER キーを押す。

3 YPAO 用マイクを本機から取り外す。

警告メッセージ	原因	対策
W-1:SP 接続逆相 (W-1:PHASE)	スピーカーの極性（+と-）が逆に接続されている可能性がある。	<p>該当スピーカーのケーブル接続（+と-）を確認してください。</p> <p>間違って接続されている場合： YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーケーブルを接続し直してください。</p> <p>正しく接続されている場合： スピーカーの種類や設置環境によっては、正しく接続されていてもこのメッセージが表示されることがあります。設定を保存し、そのままお使いください。 （お客様への確認を促すメッセージであり、そのままお使いいただいても本機の再生に影響はありません。）</p>
W-2: 距離補正限界 (W-2:DISTANCE)	スピーカーと視聴位置の距離が 24m を超えているため、正確に補正できない。	YPAO を終了してから、本機の電源を切り、該当スピーカーを視聴位置から 24m 以内に設置してください。
W-3: 音量補正限界 (W-3:LEVEL)	スピーカー間の音量差が大きすぎるため、正確に補正できない。	各スピーカー間の使用環境やケーブル接続（+と-）、サブウーファースの音量が適切かどうか確認してください。問題がある場合は、YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーの接続や配置を直してください。なるべく同じスピーカー、または性能が似ているスピーカーをお使いください。



・カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。

再生する

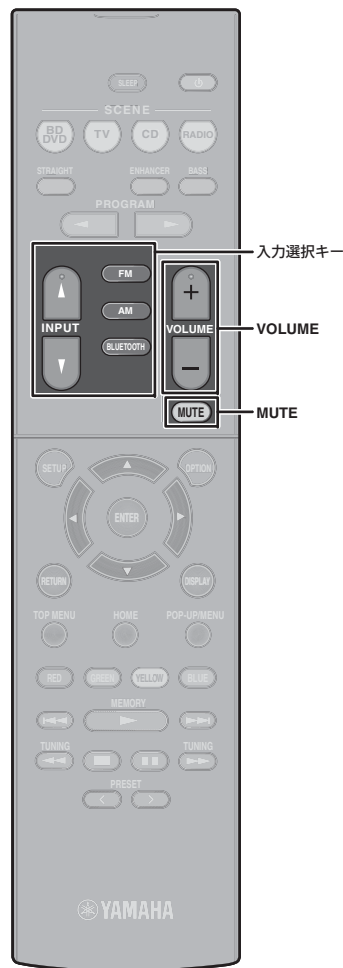
再生の基本操作

映像コンテンツや音楽を再生する

- 1 本機に接続した外部機器（テレビ、BD/DVD レコーダーなど）の電源を入れる。
- 2 入力選択キーで入力を選ぶ。
- 3 外部機器で再生を開始する、またはラジオ局を選ぶ。
各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
以下の機能については、本書の該当ページをご覧ください。
 - FM/AM ラジオを聴く（36ページ）
 - Bluetooth 機器の曲を再生する。（40ページ）
- 4 VOLUME キーで音量を調節する。



- MUTE キーで消音します。もう一度押すと消音を解除します。
- オプションメニュー、または本体前面の TONE CONTROL キーで高音域と低音域のバランスを調整できます（42ページ）。



前面ディスプレイの表示を切り替える

- 1 INFO キーを繰り返し押して、表示項目を選ぶ。



項目名

約 3 秒後に該当する情報が表示されます。



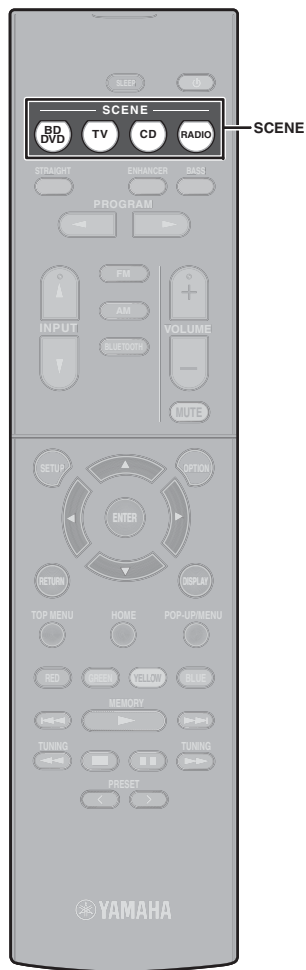
情報



- 入力により選択可能な項目が異なります。また表示項目は入力グループごとに記憶されます。
- 曲名やアーティスト名などの日本語は表示されません。

現在の入力	項目
HDMI	
AV	
AUDIO	Input（入力名）、DSP Program（音場プログラム名など）、Audio Decoder（デコーダー名*）
AUX	
Bluetooth	
TUNER	Frequency（周波数）、DSP Program（音場プログラム名など）、Audio Decoder（デコーダー名*）

* 現在動作しているオーディオデコーダー名が表示されます。動作していない場合は「Decoder Off」と表示されます。



入力と設定をワンタッチで切り替える (シーン機能)

シーン機能を使うと、入力選択と同時に、あらかじめ登録した内容 (音場プログラム、ミュージックエンハンサーの有効 / 無効) をワンタッチで選ぶことができます。

登録したシーンを呼び出す

1 SCENE キーを押す。

該当 SCENE キーに登録されている内容が呼び出されます。
本機がスタンバイ時は、電源も入ります。

各 SCENE キーの登録内容 (初期値) は以下のとおりです。

SCENE キー	BD DVD	TV	CD	RADIO
入力	HDMI1	AUDIO1	AUDIO2	TUNER
音場プログラム	MOVIE (Sci-Fi)	STRAIGHT	STRAIGHT	STEREO (5ch Stereo)
ミュージック エンハンサー	オフ	オン	オフ	オン
シーン連動	オン	オン	オフ	オフ

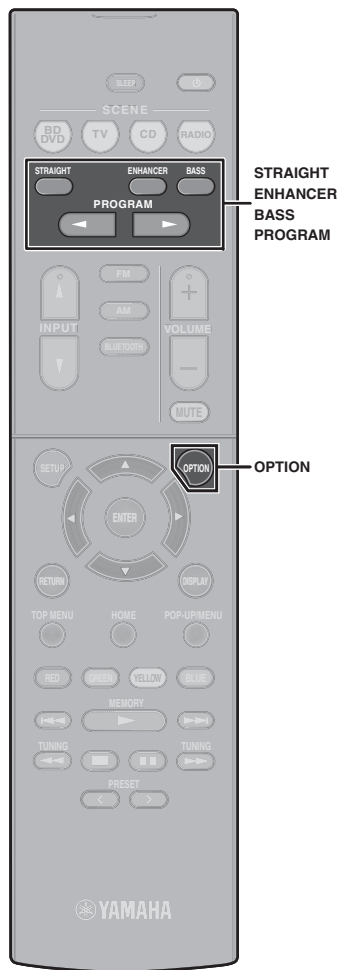


- シーン連動を使うと、シーン選択時に HDMI で本機に接続したテレビの電源が入れたり、外部機器の再生を開始したりすることができます。シーン連動を有効にするには、設定メニューの「シーン連動」(52ページ) で該当シーンの連動設定を「オン」にしてください。
- ARC (21ページ) を使う場合は、必要に応じて SCENE (TV) キーに登録されている入力を変更してください。初期状態では、ARC 使用時のテレビ音声入力用として「AV2」が設定されています (51ページ)。

シーン機能の登録内容を変更する

- 以下の操作を行って、SCENE キーに登録したい状態にする。
 - 登録したい入力を選ぶ (29ページ)
 - 登録したい音場プログラムを選ぶ (31ページ)、または音場効果をかけずに再生する (34ページ)
 - ミュージックエンハンサーを有効 / 無効にする (35ページ)
- 前面ディスプレイに「SET Complete」と表示されるまで、登録先とする SCENE キーを押し続ける。





好みのサウンドを選ぶ

本機には、さまざまな音場プログラムやサラウンドデコーダーが備わっています。再生音に音場効果を加えたい場合や、ステレオ再生で音声を楽しみたい場合など、視聴する内容に応じて、好みのサウンドを選んでください。

□ 映画、テレビ番組、ゲームなどを楽しみたい。

- PROGRAM キーを繰り返し押しして、映像コンテンツに適した音場プログラムを選びます（32ページ）。

□ 音楽鑑賞やステレオ再生を楽しみたい。

- PROGRAM キーを繰り返し押しして、音楽鑑賞に適した音場プログラムやステレオ再生を選びます（33ページ）。

□ 2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しみたい。

- オプションメニューでサラウンドデコーダーを選びます（34ページ）。

□ 音場効果をかけずに、オリジナルの音声を楽しみたい。

- STRAIGHT キーを押して、ストレートデコードに切り替えます（34ページ）。

□ より豊かな低音を楽しみたい。

- BASS キーを押して、エクストラベースを有効にします（35ページ）。

□ 圧縮音源を楽しみたい。

- ENHANCER キーを押して、ミュージックエンハンサーを有効にします（35ページ）。
Bluetooth 機器などの圧縮音源に音の深みと広がりを加え、ダイナミックな再生音をお楽しみいただけます。



- 音場プログラムやサラウンドデコーダーは入力ごとに記憶されます。
- サンプリング周波数が 96kHz を超える音声の再生時は、自動的にストレートデコード（34ページ）に切り替わります。
- 本体前面のスピーカー表示（13ページ）で、音声出力中のスピーカー端子を確認できます。
- リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE の各キーにサウンド選択の機能を割り当てることができます（57ページ）。

音場効果を楽しむ（シネマ DSP）

CINEMA DSP

本機には、ヤマハ独自の音場技術（シネマ DSP）を使った各種の音場プログラムが備わっています。これにより、映画館やコンサートホールさながらのリアルな音場を簡単に再現できます。

音場プログラムの種類



- ・ オプションメニューの「エフェクト量の加減」（42ページ）で、音場プログラムのエフェクト量（音場効果）を調節できます。

■ 映像コンテンツに適した音場プログラム（MOVIE）

映画、テレビ番組、ゲームなど、映像コンテンツに適した音場プログラムが含まれています。

Standard (スタンダード)	Dolby Digital、DTS、AAC などのマルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱さず、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」がコンセプトで、周囲から美しい響きで包み込みます。
Spectacle (スペクタクル)	壮大なスケール感を演出するスペクタクルな音場です。シネスコサイズのワイド画面に合う広大な空間と微小な効果音から迫力の大きな音響まで、ダイナミックレンジの広さが特長です。
Sci-Fi (サイファイ)	最新 SFX 映画の緻密なサウンドを鮮やかに描き分ける抜けのよい音場です。セリフ、効果音、BGM の明快な分離感を保ちつつ各空間を鮮やかに再現します。
Adventure (アドベンチャー)	アクション&アドベンチャー映画に最適です。響きを抑え、左右の広がり感を重視した力強い空間を再現します。奥行は浅めで各チャンネルのセパレーションや音の明瞭度を保ちつつ、クリアで力強い空間を再現します。
Drama (ドラマ)	シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きが特長です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音や BGM を柔らかな響きで立体的に再現します。長時間聴いても疲れません。
Mono Movie (モノムービー)	往年のモノラル映画を当時の映画館の雰囲気を楽しめます。広がりや適度な残響が付加され、奥行がある心地よい空間が再現されます。
Sports (スポーツ)	スポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに定位し、歓声など場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に広がり臨場感を体感できます。
Action Game (アクションゲーム)	カーレースや格闘ゲームなどのアクションゲームに合います。さまざまな効果を重視することで再現されたリアリティにより、ゲームの中にいるような感覚が体感できます。ミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりダイナミックで力強い音場効果が体感できます。
Roleplaying Game (ロールプレイングゲーム)	RPG やアドベンチャーゲームなどに合わせた音場です。BGM や効果音に深みを与えることで、さまざまな場面を自然に、よりリアルに再現します。ミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりクリアで奥行きのある音場効果が体感できます。

■ 音楽に適した音場プログラム (MUSIC)

音楽鑑賞に適した音場プログラムが含まれています。

Hall in Munich (ミュンヘン)	内装材にシックな木の内張りが使われたミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに広がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席は 1 階の中央左寄りです。
Hall in Vienna (ウィーン)	約 1700 席のウィーンの伝統的シューボックス型のコンサートホールです。周囲の柱や彫刻により全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
Chamber (チェンバー)	宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長です。
Cellar Club (セラークラブ)	天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場で、強い響きが特長です。
The Roxy Theatre (ロキシシアター)	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、最大で 460 席ほどあります。中央左寄りの客席です。
The Bottom Line (ボトムライン)	かつてニューヨークに存在したライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは 300 席ある左右に幅広い客席で占められ、明瞭な響きが特長です。
Music Video (ミュージックビデオ)	ポップス・ロック・ジャズなどのライブ映像をコンサート会場のイメージで楽しめます。ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感、リズム楽器のノリを重視したプレゼンス音場、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場で、ホットなライブ空間に浸れます。

■ ステレオ再生に適した音場プログラム (STEREO)

ステレオ再生が選べます。

2ch Stereo (2ch ステレオ)	ステレオ前方からのステレオ音声を楽しめます。マルチチャンネル信号が入力されると、2 チャンネルにダウンミックスされ、フロントスピーカーから出力されます (シネマ DSP は使用しません)。
5ch Stereo (5ch ステレオ)	ステレオ後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長です。最大 5 つのスピーカーから音出力され、ホームパーティーの BGM に最適です。

■ サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ (バーチャルシネマ DSP)

サラウンドスピーカーが接続されていない状態で音場プログラム (2ch Stereo、5ch Stereo 以外) を選ぶと、本機は前方のスピーカーだけで仮想スピーカーを構築し、自動的に後方の音場を創り出します。

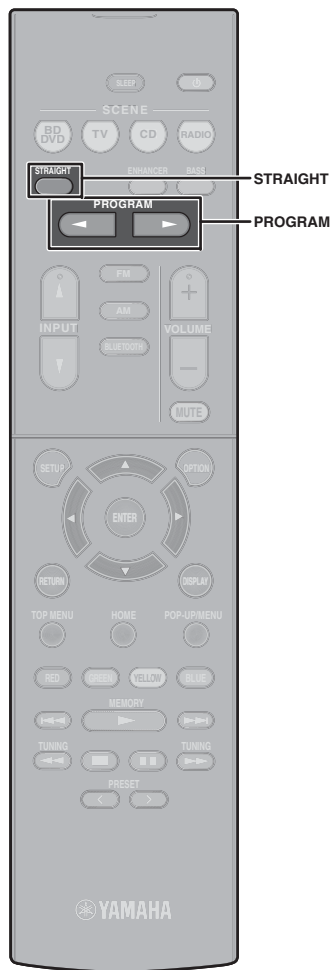
■ 前方に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生を楽しむ (バーチャルシネマフロント)

サラウンドスピーカーを前方に設置して (17 ページ)、サラウンド再生を楽しめます。

■ ヘッドホンでサラウンドを楽しむ (サイレントシネマ)

SILENT™
CINEMA

PHONES 端子にヘッドホンを接続して、音場プログラムやサラウンドデコーダーを選べば、ステレオヘッドホンでもマルチチャンネルスピーカーシステムのようなサラウンド感や音場効果を楽しむことができます。



音場効果をかけずに再生する

■ オリジナルチャンネルでの再生を楽しむ (ストレートデコード)

ストレートデコードを使うと、入力ソースに含まれている各チャンネルの音声が入力されたまま出力されます。CD などの2チャンネルソースの場合は、フロントスピーカーからステレオ音声で再生します。マルチチャンネルソースの場合は、音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。

1 STRAIGHT キーを押す。

キーを押すたびに、ストレートデコードが有効 / 無効になります。



■ マルチチャンネル再生を楽しむ (サラウンドデコーダー)

サラウンドデコーダーを使うと、音場効果をかけずに2チャンネルソースをマルチチャンネル音声で再生します。マルチチャンネルソースが入力されている場合は、ストレートデコードと同様に機能します。

各デコーダーについて詳しくは、「用語 / 技術解説」(69ページ)をご覧ください。

1 PROGRAM キーを繰り返し押して、サラウンドデコーダーを選ぶ。

前回選択していたサラウンドデコーダーが選択されます。

サラウンドデコーダーの種類は、オプションメニューの「サラウンドデコード」(41ページ)で切り替えることができます。

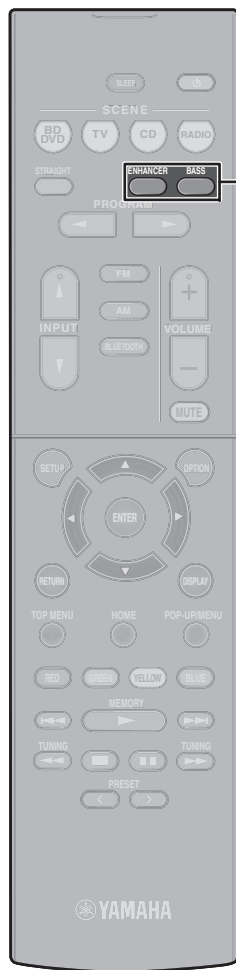
「SUR. DECODE」と表示



Pro Logic	Dolby Pro Logic デコーダーです。すべてのソースに適しています。
PLII Movie	Dolby Pro Logic II デコーダーです。映画鑑賞に適しています。
PLII Music	Dolby Pro Logic II デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。
PLII Game	Dolby Pro Logic II デコーダーです。ゲームに適しています。
Neo:6 Cinema	映画鑑賞に適した DTS Neo:6 デコーダーです。
Neo:6 Music	音楽鑑賞に適した DTS Neo:6 デコーダーです。



- ・設定メニューの「DSP パラメーター」(53ページ)で、サラウンドデコーダーの設定を変更できます。



低音を増強する（エクストラベース）

エクストラベースを使うと、フロントスピーカーの大きさやサブウーファースの有無に関わらず、より豊かな低音を楽しめます。

1 BASS キーを押す。

キーを押すたびに、エクストラベースが有効 / 無効になります。



- 設定メニューの「エクストラベース」(49ページ) でも、エクストラベースを有効 / 無効にできます。

圧縮フォーマット（MP3 など）を厚みのある音で再生する（ミュージックエンハンサー）

compressed music

ENHANCER

ミュージックエンハンサーを使うと、音に深みと広がりを加え、圧縮前の原音のようなダイナミックな再生音を楽しめます。この機能は音場プログラムと併用できます。

1 ENHANCER キーを押す。

キーを押すたびに、ミュージックエンハンサーが有効 / 無効になります。

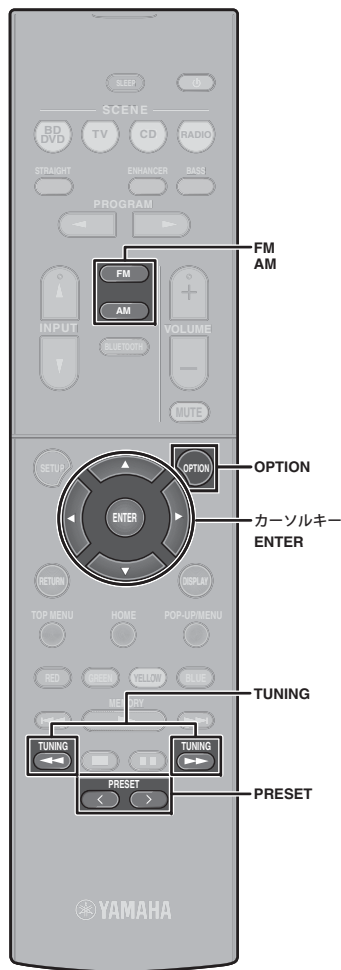
「ENHANCER」が点灯



- ミュージックエンハンサーは、以下の音源には機能しません。
 - サンプリング周波数が 48kHz を超える音声
 - HD オーディオなど高解像度のストリーム音声



- オプションメニューの「エンハンサー」(43ページ) でも、ミュージックエンハンサーを有効 / 無効にできます。



FM/AM ラジオを聴く

ラジオの選局をするには、周波数を指定するか、登録したラジオ局を呼び出します。

本機は FM 補完放送（ワイド FM）に対応しています。



・ラジオの受信感度が悪いときは、アンテナの向きを調節してください。

周波数を指定して選局する

1 FM キーまたは AM キーを押す。

入力が「TUNER」に切り替わり、選択中の周波数が表示されます。



2 TUNING キーで周波数を切り替える。

約 1 秒押し続けると、自動で選局します。



ラジオ放送受信中は「TUNED」が点灯します。
ステレオ放送の場合は「STEREO」も点灯します。



- ・ FM ラジオをモノラルで受信するには、OPTION キーを押して、カーソルキーで「FM モード」を「モノ」に切り替えます（44ページ）。FM ラジオ局の受信が不安定なときに、モノラル放送を選ぶと改善される場合があります。
- ・ ラジオを聴きながら、外部機器の映像を楽しむことができます。映像を楽しむには、オプションメニューの「映像選択」（44ページ）で外部機器を接続している入力端子を選んでください。

登録したラジオ局を選ぶ

プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）の中から、聴きたいラジオ局を選びます。

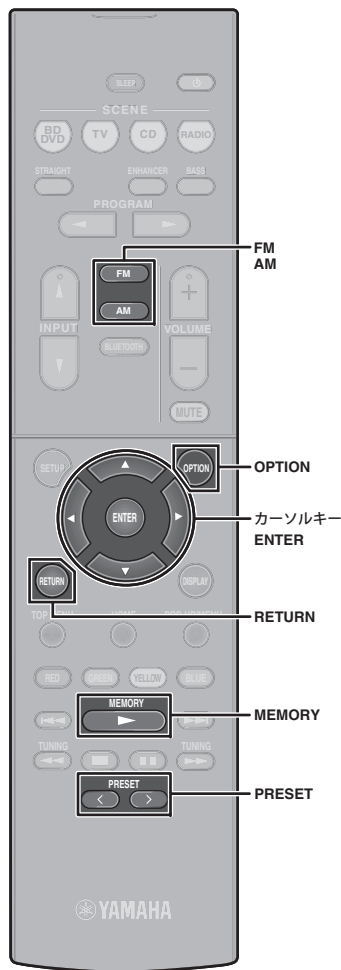


- ・ プリセット局は初期状態では登録されていません。あらかじめオートプリセットまたは手動で登録してください（37ページ）。
- ・ ラジオ局が 1 つも登録されていない場合は、「No Presets」と表示されます。

1 FM キーまたは AM キーを押す。

2 PRESET キーでプリセット局を選ぶ。





ラジオ局を自動で登録する (オートプリセット)

FM ラジオ局を自動でプリセット番号に登録します。



・ 信号の弱い局や AM ラジオ局は手動で登録してください (37ページ)。

- 1 FM キーを押す。
- 2 OPTION キーを押す。
- 3 カーソルキーで「Preset」を選び、ENTER キーを押す。



- 4 オートプリセットを始めるには、ENTER キーを押す。

最初に登録するプリセット番号を変更するには、PRESET キーまたはカーソルキー (</>) でプリセット番号を選びます。

オートプリセット中は「SEARCH」、終了すると「FINISH」と表示されます



最初に登録するプリセット番号



・ オートプリセットを中止するには、RETURN キーを押します。

オートプリセットが終わると「FINISH」と表示され、オプションメニューが自動的に終了します。

ラジオ局を手動で登録する

ラジオ局を手動で選んでプリセット番号に登録します(最大 40 局)。

- 1 「周波数を指定して選局する」(36ページ) の手順で、登録したいラジオ局を受信する。
- 2 MEMORY キーを数秒間押し続ける。

初回はプリセット番号「01」に、2 回目以降は前回登録したプリセット番号の次の空き番号に登録されます。



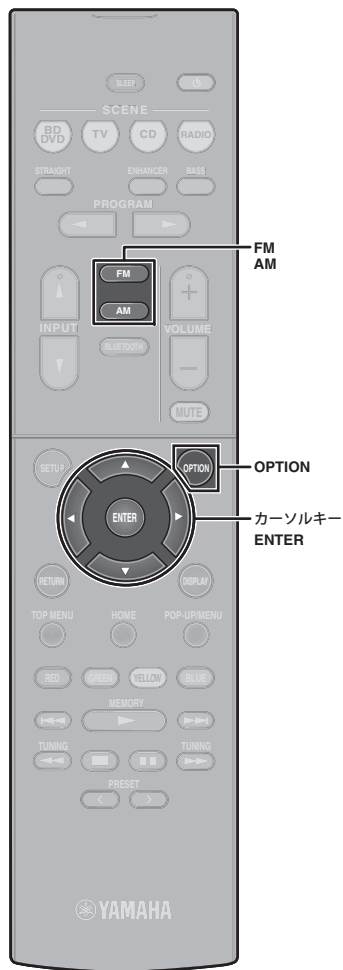
登録先のプリセット番号



・ 登録先のプリセット番号を指定するには、登録したいラジオ局を受信中に MEMORY キーを一度押します。PRESET キーでプリセット番号を選び、もう一度 MEMORY キーを押します。



「Empty」(空き) または現在登録されている周波数



ラジオ局の登録を解除する

プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）の登録を解除します。

- 1 FM キーまたは AM キーを押す。
- 2 OPTION キーを押す。
- 3 カーソルキーで「Preset」を選び、ENTER キーを押す。



- 4 カーソルキー（△/▽）で「Clear」を選ぶ。
- 5 カーソルキー（◁/▷）で登録を解除するプリセット番号を選び、ENTER キーを押す。

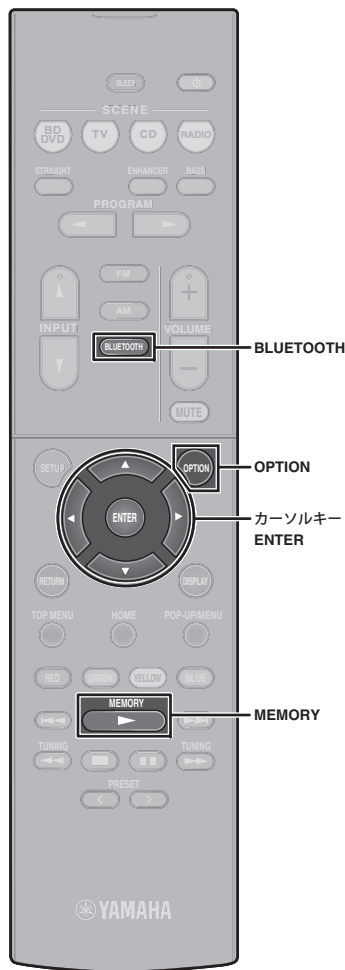


登録を解除するプリセット番号

登録が解除されると「Cleared」と表示され、次に登録されているプリセット番号が表示されます。



- 6 別のプリセット番号の登録を解除するには、手順 5 を繰り返す。
- 7 終了するには、OPTION キーを押す。



Bluetooth® 機器の曲を聴く

Bluetooth 機器の曲を本機で再生します。

お使いの Bluetooth 機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



- Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応している必要があります。
- Bluetooth 機器の映像を本機で再生することはできません。

Bluetooth 機器を接続する（ペアリング）

Bluetooth 機器を初めて本機に接続する場合は、ペアリングが必要になります。ペアリングとは Bluetooth 機器同士をあらかじめ登録することです。一度ペアリングすると、Bluetooth 接続を切断してもそれ以降は簡単に再接続できます。

1 BLUETOOTH キーを押し、入力を「Bluetooth」に切り替える。

2 前面パネルまたはリモコンの MEMORY キーを 3 秒以上押す。

前面ディスプレイに「Searching…」と表示されます。



- オプションメニューからも操作できます。OPTION キーを押し、カーソルキーで「ペアリング」を選んでください。
- 他の Bluetooth 機器と接続している場合は、他の機器との接続を切断してからペアリングを行ってください。
- 中止するには MEMORY キーを押します。

3 お使いの Bluetooth 機器を操作して、Bluetooth 機能をオンにする。

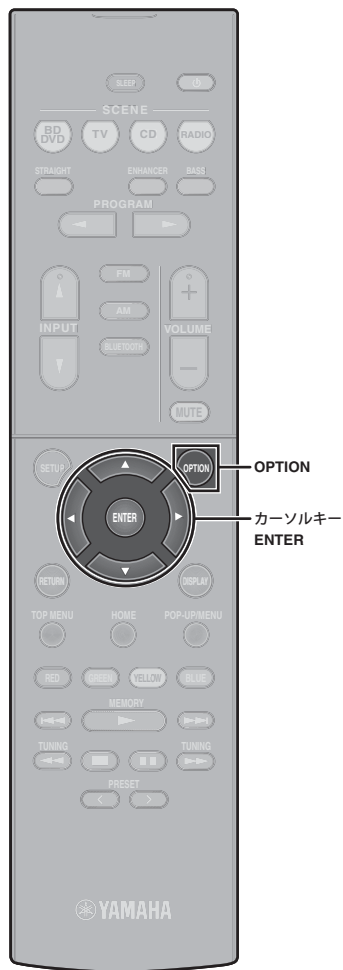
4 使用可能なデバイスのリストから本機「***** Yamaha」を選ぶ。（***** は本機のモデル名）

ペアリングが完了し Bluetooth 機器と接続すると、前面ディスプレイに「Connected」と表示されます。また接続中は Bluetooth インジケータが点灯します。

Bluetooth インジケータ



- ペアリング中にパスキーの入力を要求された場合は、数字で「0000」を入力してください。
- ペアリングの操作は 30 秒以内に完了して下さい。
- Bluetooth 機器が見つからない場合は「Not found」と表示されます。



Bluetooth 機器の曲を再生する

Bluetooth 機器を接続して曲を再生します。あらかじめ次のことを確認してください。

- ペアリングが完了している。
- Bluetooth 機器の Bluetooth 機能がオンになっている。

1 Bluetooth 機器で接続操作をする。

お使いの機器の Bluetooth 機器接続リストから本機を選びます。接続すると、本機の入力が自動的に「Bluetooth」に切り替わります。



- 接続時に入力が自動的に切り替わらないようにするには、オプションメニューの「入力連動」(42ページ)で「オフ」を選択します。
- 本機から Bluetooth 機器に接続することもできます（前回接続した機器に限る）。その場合は次のいずれかの操作をします。
 - 入力を「Bluetooth」に切り替える。
 - 入力が「Bluetooth」の状態では、ENTER キーを押す。または、OPTION キーを押し、カーソルキーで「接続」を選ぶ。
- 接続できない場合は、再度ペアリングを行ってください。

2 Bluetooth 機器を操作して曲を再生する。



- 本機で選曲や再生操作をしたり、曲名などの情報を表示したりすることはできません。

Bluetooth 機器との接続を切断する

Bluetooth 機器との接続を切断するには、次のいずれかの操作をします。

- Bluetooth 機器で切断操作をする。
- ENTER キーを押す。
- OPTION キーを押し、カーソルキーで「切断」を選ぶ。
- 本機の入力を「Bluetooth」以外にする。

再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー）

再生中のソースにあわせて、再生関連の機能を設定します。テレビ画面を使わずに、前面ディスプレイだけでも操作できるので、必要なときに簡単に設定を変更できます。

オプションメニューの操作方法

1 OPTION キーを押す。



前面ディスプレイ



テレビ画面

2 カーソルキーで設定項目を選び、ENTER キーを押す。



- メニュー操作中、1つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

3 カーソルキー（</>）で設定値を選ぶ。

4 終了するには、OPTION キーを押す。

オプションメニューでできること



- 選択中の入力に適用可能な項目のみが表示されます。
- カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。
- 各項目の初期値には下線が付いています。

項目	説明	ページ
入力切替（Input Select）	入力を切り替えます。	42
トーンコントロール（Tone Control）	音声の高音域と低音域の音量を、それぞれ調整します。	42
プログラム（PRG）	音場プログラムやステレオ再生を選びます。	32
サラウンドデコード（SrDec）	プログラムで「サラウンドデコード」を選択しているときに、使用するデコーダーを選びます。	34
エフェクト量の加減（DSP Level）	音場プログラムのエフェクト量を調節します。	42
DSP/サラウンド（DSP/Surround）		
アダプティブDRC（A.DRC）	音量調節に連動して、ダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）を自動的に調節するかどうかを設定します。	42
多重モノラル音声（Dual Mono）	多重音声入力時の出力音声を設定します。	42
エンハンサー（Enhancer）	ミュージックエンハンサーを有効/無効にします。	43
再生レベル補正（Volume Trim）		
入力レベル補正（In.Trim）	入力間の音量差を補正します。	43
サブウーファースレベル補正（SW.Trim）	サブウーファースの音量を微調整します。	43
リップシンク設定（Lipsync）	設定メニューの「リップシンク」で設定した補正値を有効/無効にします。	43
信号情報（Signal Info.）	映像/音声信号に関する情報を確認します。	43
音声入力（Audio In）	選択した入力の映像とほかの端子の音声を組み合わせます。	44
映像選択（Video Out）	選択した入力の音声と同時に出力する映像を設定します。	44
FM モード（FM Mode）	FM ラジオのステレオ/モノラルを切り替えます。	44

項目	説明	ページ
プリセット (Preset)	オートプリセット	信号の強い FM ラジオ局を自動でプリセット番号に登録します。
	クリアプリセット	プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）の登録を解除します。
ペアリング (Pairing)	本機とお使いの Bluetooth 機器をペアリングします。	39
接続 / 切断 (Connect/Disconnect)	本機とお使いの Bluetooth 機器を接続 / 切断します。	40
入力連動 (Interlock)	Bluetooth 接続時、自動的に入力を「Bluetooth」に切り替えるかどうかを選びます。	40

入力切替 (Input Select)

入力を切り替えます。ENTER キーを押すと、選択中の入りに切り替わります。

選択項目

HDMI1 ～ 4、AUDIO1 ～ 2、AV1 ～ 3、TUNER、Bluetooth、AUX

トーンコントロール (Tone Control)

出力される音声の高音域 (Treble) と低音域 (Bass) の音量を、それぞれ調整します。

選択項目

高音 (Treble)、低音 (Bass)

設定値

-6.0dB ～ 0.0dB ～ +6.0dB (0.5dB 単位)



- 高音 (Treble) と低音 (Bass) の両方が 0.0dB の場合は、「バイパス (Bypass)」と表示されます。
- 本体前面のキーでも調整できます。TONE CONTROL キーで「Treble」または「Bass」を選び、PROGRAM キーで調整してください。



- 極端な設定にすると、音のつながりが悪くなることがあります。

DSP/ サラウンド (DSP/Surround)

音場プログラムやサラウンドに関する設定を変更します。

■ エフェクト量の加減 (DSP Level)

音場プログラムのエフェクト量 (音場効果) を調節します。

設定値

-6dB ～ 0dB ～ +3dB (1dB 単位)

■ アダプティブ DRC (A.DRC)

音量調節に連動して、ダイナミックレンジ (最大音量と最小音量の差) を自動的に調節するかどうかを設定します。「オン」にすると、夜間に再生するときなど小音量でも聴きやすくなります。

設定値

オン (On)	ダイナミックレンジを自動的に調節する。
オフ (Off)	ダイナミックレンジを自動的に調節しない。

■ 多重モノラル音声 (Dual Mono)

地上デジタル/BS デジタル放送など、モノラル多重音声入力時の出力音声を設定します。

設定値

すべて (All)	主音声と副音声をフロントスピーカーから同時に出力する。 PCM 信号の左右振り分けは、デジタル放送チューナーの設定により異なります。
主音声 (Main)	主音声をフロントスピーカーから出力する。
副音声 (Sub)	副音声をフロントスピーカーから出力する。

■ エンハンサー（Enhancer）

ミュージックエンハンサー（35ページ）を有効 / 無効にします。



- 入力ごとに個別に設定できます。
- リモコンの ENHANCER キーでも、ミュージックエンハンサー（35ページ）を有効 / 無効にできます。

設定値

オフ（Off）	ミュージックエンハンサーを無効にする。
オン（On）	ミュージックエンハンサーを有効にする。

初期値

Bluetooth、TUNER：オン（On）
その他：オフ（Off）

再生レベル補正（Volume Trim）

入力間の音量差やサブウーファースの音量を微調整します。

■ 入力レベル補正（In.Trim）

入力間の音量差を補正します。入力切替時に音量の増減が気になる場合は、この設定を使って調節してください。



- 入力ごとに個別に設定できます。

設定値

-6.0dB ～ 0.0dB ～ +6.0dB（0.5dB 単位）

■ サブウーファーレベル補正（SW.Trim）

サブウーファースの音量を微調整します。

設定値

-6.0dB ～ 0.0dB ～ +6.0dB（0.5dB 単位）

リップシンク設定（Lipsync）

設定メニューの「リップシンク」（53ページ）で設定した補正値を有効 / 無効にします。



- 入力ごとに個別に設定できます。

設定値

オフ（Off）	リップシンクによる補正を無効にする。
オン（On）	リップシンクによる補正を有効にする。

信号情報（Signal Info.）

映像 / 音声信号に関する情報を確認します。

選択項目

信号方式（FORMAT）	入力信号の音声フォーマット
チャンネル（CHANNEL）	入力信号のチャンネル数（フロント / サラウンド / LFE） 「3/2/0.1」と表示されている場合、フロント 3ch、 サラウンド 2ch、LFE 0.1ch
サンプリング（SAMPLING）	入力デジタル信号の 1 秒あたりのサンプル数
ビットレート（BITRATE）	入力ビットストリーム信号の 1 秒あたりのデータ量
映像入力（VIDEO IN）	入力中のデジタル映像信号の種類と解像度
映像出力（VIDEO OUT）	出力中のデジタル映像信号の種類と解像度



- 前面ディスプレイの表示項目を切り替えるには、カーソルキー（△/▽）を繰り返し押します。

音声入力（Audio In）

本機の入力端子（映像 / 音声）の組み合わせがビデオ機器と合わない場合は、本機の入力端子の組み合わせを、ビデオ機器の出力端子にあわせて変更できます。これにより、次のような出力端子（映像 / 音声）を持つビデオ機器との接続が可能になります。

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子	
映像	音声	映像	音声
HDMI	光デジタル	HDMI1 ～ 4	AUDIO1（OPTICAL）
	同軸デジタル	HDMI1 ～ 4	AUDIO2（COAXIAL） AV1（COAXIAL）
	アナログステレオ	HDMI1 ～ 4	AV2 ～ 3（AUDIO）
コンポジットビデオ	光デジタル	AV1 ～ 3（VIDEO）	AUDIO1（OPTICAL）

■ 必要な設定

例として、映像は AV2（VIDEO）端子、音声は AUDIO1 端子に接続した場合の設定手順を説明します。

- 1 INPUT キーで入力を「AV2」（映像を入力する端子）に切り替える。
- 2 OPTION キーを押す。
- 3 カーソルキー（△/▽）で「Audio In」を選び、ENTER キーを押す。



- 4 カーソルキー（</>）で「AUDIO1」（音声を入力する端子）を選ぶ。



- 5 OPTION キーを押す。

INPUT キーで入力を「AV2」に切り替えると、「AV2」の映像と「AUDIO 1」の音声の本機から出力されます。

映像選択（Video Out）

選択した入力の音声と同時に出力する映像を設定します。この設定を使うと、例えば、ラジオを聴きながら他の入力の映像を見ることができます。

設定可能な入力
AUDIO、TUNER、Bluetooth、AUX

設定値	
オフ（Off）	映像を表示しない。
HDMI1 ～ 4、AV1 ～ 3	選択した入力の映像を表示する。

FM モード（FM Mode）

FM ラジオの受信方法（ステレオ / モノラル）を切り替えます。FM ラジオ局の受信が不安定なときに、モノラル放送を選ぶと改善される場合があります。

設定値	
ステレオ（Stereo）	FM ラジオをステレオで受信する。
モノ（Mono）	FM ラジオをモノラルで受信する。

設定する

詳細機能を設定する（設定メニュー）

本機の詳細機能を設定します。

ここではテレビ画面を使った設定メニューの操作方法を説明します。



- 設定メニューをテレビ画面に表示するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。

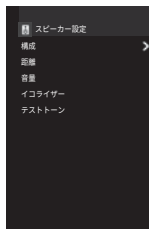
設定メニューの操作方法

1 SETUP キーを押す。

2 カーソルキーでメニューを選び、ENTER キーを押す。



3 カーソルキーで設定項目を選び、ENTER キーを押す。



- メニュー操作中、1つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

4 カーソルキー（ $\triangleleft/\triangleright$ ）で設定値を選ぶ。

5 終了するには、SETUP キーを押す。

設定メニューでできること



・ カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。

メニュー	項目	説明	ページ
スピーカー設定 (Speaker Setup)	サブウーファー (Subwoofer)	サブウーファーの有無を選択します。	48
	フロント (Front)	フロントスピーカーのサイズを選択します。	48
	センター (Center)	センタースピーカーの有無やサイズを選択します。	48
	サラウンド (Sur. LR)	サラウンドスピーカーの有無やサイズを選択します。	48
	構成 (Config)		
	低音クロスオーバー (Crossover)	「小」に設定したスピーカーから出力する、低音域の周波数を設定します。	48
	サブウーファー位相 (SWFR Phase)	サブウーファーの位相を設定します。	49
	エクストラベース (Extra Bass)	エクストラベースを有効 / 無効にします。	49
	バーチャルシネマフロン ト (V.C.FRONT)	バーチャルシネマフロントを使うかどうかを設定します。	49
	距離 (Distance)	スピーカーの距離を個別に設定します。	49
	音量 (Level)	スピーカーの音量を個別に設定します。	49
	イコライザー (Equalizer)	イコライザーを使って音色を調節します。	50
	テストトーン (Test Tone)	テストトーン出力を有効 / 無効にします。	50
HDMI 設定 (HDMI Setup)	HDMI コントロール (Control)	HDMI コントロールを有効 / 無効にします。	51
	音声出力 (Audio Output)	音声の出力先を設定します。	51
	TV 音声入力 (TV Audio)	テレビの音声出力端子と接続した本機の音声入力端子を選択します。	51
	スタンバイ連動 (Sync)	HDMI コントロールでテレビと本機の電源スタンバイを連動させるかどうかを設定します。	51
	ARC (ARC)	ARC を有効 / 無効にします。	52
	シーン連動 (SCENE)	シーン連動を有効 / 無効にします。	52

メニュー	項目	説明	ページ	
音声設定 (Sound Setup)	DSP パラメーター (DSP Parameter)	パノラマ (Panorama)	フロント音場の広がり感を調節します。	53
		センターの広がり (CT Width)	センターチャンネル音声の左右への広がりを調節します。	53
		ディメンション (Dimension)	フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節します。	53
		センターイメージ (C.Image)	フロント音場のセンター定位の強さ（広がり感）を調節します。	53
	リップシンク (Lipsync)	自動 / 手動選択 (Select)	映像と音声の出力タイミングのずれを補正する方法を選択します。	53
		調整（Adjustment）	映像と音声のずれを手動で調整します。	53
	ダイアログ (Dialogue)	セリフ音量調整 (Level)	中央に定位する音（セリフなど）の音量を調整します。	54
	音量（Volume）	音量表示（Scale）	音量の表示方式を切り替えます。	54
		ダイナミックレンジ (DRC)	Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を選択します。	54
		音量の上限（MaxVol）	リモコンの VOLUME キーなどで調節可能な音量の上限値を設定します。	54
		音量の初期値（IniVol）	電源を入れたときの音量を設定します。	54
エコ設定 (ECO Setup)	自動スタンバイ（AutoPowerStdby）		本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにします。	55
	エコモード（ECO Mode）		エコモード（消費電力の節約）を有効 / 無効にします。	55
ファンクション設定 (Func. Setup)	入力名変更（Input Rename）		前面ディスプレイに表示する、入力の名称を変更します。	56
	入ラスキップ（Input Skip）		INPUT キーを操作した時にスキップする入力を設定します。	56
	明るさ（Dimmer）		前面ディスプレイの明るさを調節します。	57
	設定保護（Memory Guard）		設定を保護して、変更できないようにします。	57
	リモコンカラーキー（Rem. Color Key）		リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE のキーに本機の機能を設定します。	57
言語設定（OSD Language）		テレビ画面の表示言語を設定します。		58

スピーカー設定

スピーカーの各種パラメーターを手動で設定します。



- 各項目の初期値には下線が付いています。

■ 構成

スピーカーの出力特性を設定します。



- スピーカーサイズ選択の目安は、使用するスピーカーのウーファー部口径が 16cm 以上の場合は「大」、16cm 未満の場合は「小」です。

サブウーファー

サブウーファーの有無を選択します。

設定値

使用する	サブウーファーを接続している場合に選択する。 LFE（低域効果音）チャンネルの音声と、他のスピーカーから振り分けられた音声サブウーファーから出力されます。
使用しない	サブウーファーを接続しない場合に選択する。 低音域の音声はフロントスピーカーから出力されます。

フロント

フロントスピーカーのサイズを選択します。

設定値

小	フロントスピーカーが小さい場合に選択する。 フロントチャンネルの低音域（「低音クロスオーバー」で周波数を設定可）は、サブウーファーから出力されます。
大	フロントスピーカーが大きい場合に選択する。 フロントチャンネルの全帯域がフロントスピーカーから出力されます。



- 「サブウーファー」が「使用しない」の場合は、自動的に「大」が選択されます。

センター

センタースピーカーの有無やサイズを選択します。

設定値

小	センタースピーカーが小さい場合に選択する。 センターチャンネルの低音域（「低音クロスオーバー」で周波数を設定可）は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。
大	センタースピーカーが大きい場合に選択する。 センターチャンネルの全帯域がセンタースピーカーから出力されます。
無	センタースピーカーを接続しない場合に選択する。 センターチャンネルの音声はフロントスピーカーから出力されます。

サラウンド

サラウンドスピーカーの有無やサイズを選択します。

設定値

小	サラウンドスピーカーが小さい場合に選択する。 サラウンドチャンネルの低音域（「低音クロスオーバー」で周波数を設定可）は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。
大	サラウンドスピーカーが大きい場合に選択する。 サラウンドチャンネルの全帯域がサラウンドスピーカーから出力されます。
無	サラウンドスピーカーを接続しない場合に選択する。 サラウンドチャンネルの音声はフロントスピーカーから出力され、音場プログラムがバーチャルシネマ DSP に切り替わります。

低音クロスオーバー

「小」に設定したスピーカーから出力する、低音域の周波数を設定します。設定値より低い周波数の音声は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。

設定値

40Hz、60Hz、80Hz、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz



- サブウーファー側で音量やクロスオーバー周波数を調節できる場合は、音量を半分に、クロスオーバー周波数を最大にしてください。

サブウーファー位相

サブウーファーの位相を設定します。視聴位置で低音が弱く感じるときに、位相を変更すると改善される場合があります。

設定値

正相	サブウーファーの位相を反転しない。
逆相	サブウーファーの位相を反転する。

エクストラベース

エクストラベースを有効 / 無効にします。有効にすると、フロントスピーカーの大きさをサブウーファーの有無に関わらず、より豊かな低音を楽しめます。

設定値

オフ	エクストラベースを無効にする。
オン	エクストラベースを有効にする。



- リモコンの BASS キーでも、エクストラベース（35ページ）を有効 / 無効にできます。

バーチャルシネマフロント

バーチャルシネマフロント（17ページ）を使うかどうかを設定します。

設定値

オフ	バーチャルシネマフロントを使用しない。
オン	バーチャルシネマフロントを使用する。



- バーチャルシネマフロントを使うときのみ、「オン」に設定してください。
- 「サラウンド」が「無」の場合は設定できません。

■ 距離

スピーカーの距離を個別に設定して、各スピーカーの音が視聴位置に同時に届くように調節します。最初に「単位」を「メートル」または「フィート」から選んでください。

選択項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サブウーファー

設定値

0.30m ～ 24.00m（1.0ft ～ 80.0ft）、0.05m（0.2ft）単位

初期値

フロント左、フロント右、サブウーファー：3.00m（10.0ft）

センター：2.60m（8.6ft）

サラウンド右、サラウンド左：2.40m（8.0ft）

■ 音量

スピーカーの音量を個別に調節します。



- 「テストトーン」（50ページ）を使用して実際の効果を確認しながら調整できます。

選択項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サブウーファー

設定値

-10.0dB ～ +10.0dB（0.5dB 単位）

初期値

フロント左、フロント右、サブウーファー：0.0dB

その他：-1.0dB

■ イコライザー

イコライザーを使って音色を調節します。



- ・「テストトーン」(50ページ) を使用して実際の効果を確認しながら調整できます。

イコライザー選択

使用するイコライザーの種類を選択します。

設定値

PEQ	YPAO の自動測定 (25ページ) で得たパラメトリックイコライザーの値を適用する。
GEQ	イコライザーを手動で調節する場合に選択する。 詳しくは「イコライザーの手動編集」をご覧ください。
オフ	イコライザーを使用しない。



- ・「PEQ」は YPAO 実行後 (25ページ) のみ選択できます。

■ イコライザーの手動編集

- 1 「イコライザー選択」で「GEQ」を選ぶ。
- 2 カーソルキー (△/▽) で「チャンネル」を選び、カーソルキー (◀/▶) で調節するチャンネルを選ぶ。
- 3 カーソルキー (△/▽) で周波数を選び、カーソルキー (◀/▶) でレベルの強さを調節する。

設定値

-6.0dB ~ +6.0dB (0.5dB 単位)

- 4 終了するには、SETUP キーを押す。

■ テストトーン

テストトーン出力を有効 / 無効にします。テストトーンを出力すると、実際の効果を確認しながらスピーカーの音量やイコライザーを調節できます。

設定値

オフ	テストトーンを出力しない。
オン	スピーカーの音量やイコライザーなどを設定する際に、テストトーンを自動的に出力する。

HDMI 設定

HDMI に関する設定を変更します。



- 各項目の初期値には下線が付いています。

■ HDMI コントロール

HDMI コントロール（71ページ）を有効 / 無効にします。

設定値

オフ	HDMI コントロールを無効にする。
<u>オン</u>	HDMI コントロールを有効にする。 「TV 音声入力」、「スタンバイ連動」、「ARC」、「シーン連動」の設定が適用されます。



- 「HDMI コントロール」を「オン」に設定しただけでは、HDMI コントロールは機能しません。HDMI コントロール対応のテレビや再生機器を本機に接続後、連動設定が必要になります（71ページ）。

■ 音声出力

音声の出力先を設定します。



- 「HDMI コントロール」が「オフ」の場合のみ設定できます。

アンプ

音声を本機に接続したスピーカーから出力するかどうかを設定します。

設定値

オフ	スピーカーから出力しない。
<u>オン</u>	スピーカーから出力する。

HDMI OUT (TV)

音声を HDMI OUT 端子に接続したテレビから出力するかどうかを設定します。

設定値

オフ	テレビから出力しない。
<u>オン</u>	テレビから出力する。

■ TV 音声入力

「HDMI コントロール」を「オン」に設定時、テレビの音声出力端子と接続した本機の音声入力端子を選択します。テレビ側の入力設定を内蔵チューナー（テレビ）に切り替えると、本機の入力が自動的にテレビ音声に切り替わります。

設定値

AV1 ~ 3、AUDIO1 ~ 2

初期値

AV2



- ARC 使用時は、ここで選択した入力がテレビ音声入力用として使用されます。したがって、本体背面の該当入力端子は使用できません。

■ スタンバイ連動

「HDMI コントロール」を「オン」に設定時、HDMI コントロールでテレビと本機の電源スタンバイを連動させるかどうかを設定します。

設定値

オフ	テレビと本機の電源スタンバイを連動させない。
オン	テレビの電源スタンバイに連動して本機もスタンバイにする。
<u>自動</u>	本機がテレビ音声入力中または HDMI 信号入力中のみ、テレビの電源スタンバイに連動して本機もスタンバイにする。

■ ARC

「HDMI コントロール」を「オン」に設定時、ARC (21ページ) を有効 / 無効にします。

設定値

オフ	ARC を無効にする。
オン	ARC を有効にする。



- 通常は「オン」(初期値) から変更する必要はありません。本機が非対応の音声信号がテレビから入力されてノイズが発生する場合のみ、「オフ」に設定してください。この場合は、テレビ側のスピーカーをお使いください。

■ シーン連動

「HDMI コントロール」を「オン」に設定時、シーン連動を有効 / 無効にします。

シーン連動を使うと、シーン選択時に本機に接続した HDMI コントロール対応の外部機器が次のように連動します。

- テレビの電源「入」、入力の切り替え
- 再生機器の再生開始

選択項目 (SCENE キー)

BD/DVD、TV、CD、RADIO

設定値

オフ	選択した SCENE キーのシーン連動を無効にする。
オン	選択した SCENE キーのシーン連動を有効にする。

初期値

BD/DVD、TV : オン

CD、RADIO : オフ



- 機器の相性などにより、シーン連動が正しく機能しない場合があります。
- HDMI コントロール機能をより有効に利用するために、テレビと再生機器は、なるべく同一メーカーのものを使うことをおすすめします。各メーカーの HDMI コントロール対応機種については、以下のウェブサイトをご覧ください。
http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/

音声設定

音声出力に関する設定を変更します。



- 各項目の初期値には下線が付いています。

■ DSP パラメーター

サラウンドデコーダーに関する設定を変更します。

パノラマ

「 PLII Music」選択時の、パノラマ（フロント音場の広がり感）を有効 / 無効にします。有効にすると、フロントチャンネル音声を左右に大きく回り込ませて、サラウンド音場とつながるような広がり感を得ることができます。

設定値

オフ	パノラマを無効にする。
オン	パノラマを有効にする。

センターの広がり

「 PLII Music」選択時の、センターチャンネル音声の左右への広がりを調節します。値を大きくすると左右に広がり、小さくするとセンターに近づきます。

設定値

0 ~ 3 ~ 7

ディメンション

「 PLII Music」選択時の、フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節します。値を大きくするとフロント音場が強くなり、小さくするとサラウンド音場が強くなります。

設定値

-3 ~ 0 ~ +3

センターイメージ

「Neo:6 Music」選択時の、フロント音場のセンター定位の強さ（広がり感）を調節します。値を大きくするとセンター定位が強まり広がり感が減少し、小さくするとセンター定位が弱まり広がり感が増加します。

設定値

0.0 ~ 0.3 ~ 1.0

■ リップシンク

映像と音声の出力タイミングのずれを調整します。



- オプションメニューの「リップシンク設定」（43ページ）で、リップシンクによる補正を入力ごとに有効 / 無効にできます。

自動 / 手動選択

映像と音声の出力タイミングのずれを補正する方法を選択します。

設定値

手動補正	映像と音声のずれを手動で調整する。 「調整」で入力した値が補正值として適用されます。
<u>自動補正</u>	映像と音声のずれを自動で調整する。（自動補正に対応しているテレビを HDMI で本機に接続している場合のみ有効） 必要に応じて、「調整」で補正時間を微調整できます。



- 本機に接続したテレビにより、自動的に「手動補正」に設定される場合があります。

調整

「自動 / 手動選択」を「手動補正」に設定時、映像と音声のずれを手動で調整します。「自動 / 手動選択」を「自動補正」に設定時は、自動補正された値をさらに微調整することができます。

設定値

0ms ~ 500ms（1ms 単位）

■ ダイアログ

中央に定位する音の音量を設定し、セリフなどを強調します。セリフが聴こえにくい場合などにご利用ください。

セリフ音量調整

中央に定位する音（セリフなど）の音量を調整します。

設定値

0 ～ 3（値が大きいくほど強調）

■ 音量

音量に関する設定を変更します。

音量表示

音量の表示方式を切り替えます。

設定値

<u>dB</u>	dB（デシベル）単位で表示します。
0-97	数値（0.5 ～ 97.0）で表示します。

ダイナミックレンジ

Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を選択します。

設定値

<u>最大</u>	入力信号を補正せずに再生する。
標準	家庭での使用に適したダイナミックレンジで再生する。
最小 / 自動	夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジで再生する。 Dolby TrueHD 再生時は、入力信号の情報にもとづいて再生されます。

音量の上限

リモコンの VOLUME キーなどで調節可能な音量の上限値を設定します。

設定値

-30.0dB ～ +15.0dB（5.0dB 単位）、+16.5dB
[50.0 ～ 95.0（5.0 単位）、97.0]

音量の初期値

電源を入れたときの音量を設定します。

設定値

<u>オフ</u>	前回電源をスタンバイにしたときの音量を適用する。
ミュート	消音を適用する。
-80.0dB ～ +16.5dB (0.5dB 単位)	指定した音量を適用する。
[0.5 ～ 97.0 (0.5 単位)]	(「音量の上限」より低く設定した場合のみ有効)

エコ設定

電源 / 消費電力に関する設定を変更します。



- 各項目の初期値には下線が付いています。

■ 自動スタンバイ

本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにします。

設定値

<u>オフ</u>	電源を自動的にスタンバイにしない。
20 分	本機を 20 分間操作しなかったとき、かつ本機が 20 分間入力信号を検知しなかったときに電源を自動的にスタンバイにする。
2 時間、4 時間、 8 時間、12 時間	本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにする。



- スタンバイになる直前、前面ディスプレイに「AutoPowerStdby」と、スタンバイに切り替わるまでの秒数が表示されます。

■ エコモード

エコモードを有効にすると、本機の消費電力を低減できます。

「エコモード」を「オン」に設定した場合は、ENTER キーを押して必ず本機を再起動してください。新しい設定は再起動後に反映されます。

設定値

<u>オフ</u>	エコモードを無効にする。
オン	エコモードを有効にする。



- 「エコモード」を「オン」に設定時は、前面ディスプレイの表示が暗くなることがあります。
- 大きな音量で再生する場合は、「エコモード」を「オフ」に設定してください。

ファンクション設定

本機をより便利に使うための機能を設定します。



- ・各項目の初期値には下線が付いています。

■ 入力名変更

前面ディスプレイに表示する、入力の名称を変更します。あらかじめ用意されている名称や、接続機器の名称を自動で設定することもできます。

対象の入力

HDMI1 ～ 4、AUDIO1 ～ 2、AV1 ～ 3、Bluetooth、AUX

初期値

HDMI1 ～ 4: 自動

その他: 手動 (Bluetooth、AUX は「手動」のみ選択可)

■ 自動設定する場合

- 1 カーソルキー (△/▽) で名称を変更する入力を選ぶ。
- 2 カーソルキー (</>) で「自動」を選ぶ。
接続機器に応じて、本機が自動的に名称を生成します。
- 3 生成された名称を確認し、ENTER キーを押す。



- ・「自動」を選択時、機器の接続を外しても入力名は保持されます。初期値に戻すには、一度「手動」に切り替えてから「自動」に戻してください。

- 4 別の入力の名称を変更するには、手順 1 ～ 3 を繰り返す。
- 5 終了するには、SETUP キーを押す。

■ 手順で設定する場合

- 1 カーソルキー (△/▽) で名称を変更する入力を選ぶ。
- 2 カーソルキー (</>) で「手動」を選び、ENTER キーを押す。



- ・カーソルキー (</>) であらかじめ用意されている名称を選択できます。

- 3 ENTER キーを押す。
編集画面が表示されます。
- 4 カーソルキーや ENTER キーを使って名称を編集し、「確認」を選択して新しい名前を確認する。



- ・入力した内容を取り消すには、「取消」を選択します。

- 5 別の入力の名称を変更するには、手順 1 ～ 4 を繰り返す。
- 6 終了するには、SETUP キーを押す。

■ 入力スキップ

INPUT キーを操作したときにスキップする入力を設定します。
スキップにより、目的の入力を素早く選べます。

対象の入力

HDMI1 ～ 4、AUDIO1 ～ 2、AV1 ～ 3、TUNER、Bluetooth、AUX

設定値

オフ	スキップ設定しない。
オン	スキップ設定する。

■ 明るさ

前面ディスプレイの明るさを調節します。

設定値

-4 ～ 0（値が大きいほど明るい）



- ・「エコモード」（55ページ）を「オン」に設定時は、前面ディスプレイの表示が暗くなることがあります。


■ 設定保護

設定を保護して、変更できないようにします。

設定値

オフ	設定を保護しない。
オン	設定を保護する。「オフ」に戻すまで、設定変更が禁止されます。



- ・「設定保護」を「オン」に設定時は、メニュー画面に設定保護（）アイコンが表示されます。

■ リモコンカラーキー

リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの機能を設定します。

設定値

初期値	HDMI で接続された再生機器の機能にしたがう。
入力	各キーに本機の入力を割り当てる。割り当てる入力は個別に設定できません。 対象の入力 HDMI1 ～ 4、AUDIO1 ～ 2、AV1 ～ 3、TUNER、Bluetooth、AUX 初期値 RED：HDMI 2、GREEN：HDMI 4、YELLOW：AV 2、BLUE：AUX
プログラム	各キーにサウンド選択の機能を割り当てます。 RED：MOVIE GREEN：MUSIC YELLOW：STEREO BLUE：SUR.DECODE たとえば RED キーを繰り返し押すと、映像コンテンツに適した音場プログラム（MOVIE）（p.32）の中からお好みの音場プログラムを選べます。

言語設定

テレビ画面の表示言語を設定します。



- 初期値には下線が付いています。

設定値

English	英語
<u>日本語</u>	日本語
Français	フランス語
Deutsch	ドイツ語
Español	スペイン語
Русский	ロシア語
Italiano	イタリア語
中文	中国語



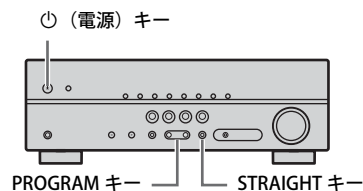
- 前面ディスプレイは常に英語で表示されます。

システム設定を変更する（アドバンスドセットアップメニュー）

前面ディスプレイを見ながら、本機のシステム設定を変更します。

アドバンスドセットアップメニューの操作方法

- 1 本機の電源が入っている場合は、電源をスタンバイにする。
- 2 前面の STRAIGHT キーを押しながら ㊦（電源）キーを押す。



REMOTE ID: ID1

- 3 PROGRAM キーで設定項目を選ぶ。
- 4 STRAIGHT キーで設定値を選ぶ。
- 5 ㊦（電源）キーで、電源をスタンバイにしてから再度電源を入れる。
設定変更が反映されます。

アドバンスドセットアップメニューでできること



・各項目の初期値には下線が付いています。

項目	説明	ページ
REMOTE ID	本体側のリモコン ID を変更します。	59
TV FORMAT	HDMI 映像出力のビデオ信号方式を切り替えます。	60
4K MODE	HDMI 4K 信号のフォーマットを設定します。	60
INIT	各種設定を初期化します。	60
VERSION	本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。	60

リモコン ID の設定（REMOTE ID）

リモコン側のリモコン ID（初期値：ID1）と一致するよう、本体側のリモコン ID を変更します。複数のヤマハ製 AV レシーバーをお使いの場合、それぞれのリモコンで各レシーバーを操作するために、リモコン ID が重ならないように設定します。

設定値

ID1、ID2

■ リモコン側のリモコン ID 設定

- 1 ID1 に設定するには、カーソルキー（<）を押しながら SCENE（BD/DVD）キーを 3 秒間押し続ける。
ID2 に設定するには、カーソルキー（<）を押しながら SCENE（TV）キーを 3 秒間押し続ける。

ビデオ信号方式の変更 (TV FORMAT)

お使いのテレビにあわせて、本機の HDMI OUT 端子から出力されるビデオ信号方式を切り替えます。通常は変更する必要はありません。本機により、テレビにあったビデオ信号方式が自動的に選択されます。テレビの映像が乱れる場合のみ変更してください。

設定値

NTSC、PAL

HDMI 4K 信号のフォーマット設定 (4K MODE)

HDMI 4K (60Hz/50Hz) 対応のテレビおよび再生機器を接続したときに、本機が入出力する信号のフォーマットを設定します。

設定値

MODE1	4K (60Hz/50Hz) 信号を 4:4:4、4:2:2 または 4:2:0 フォーマットで入出力する。 接続機器や HDMI ケーブルによっては、映像が乱れる場合があります。その場合は、「MODE2」に設定してください。
MODE2	4K (60Hz/50Hz) 信号を 4:2:0 フォーマットで入出力する。



- ・「MODE1」に設定した場合は、18Gbps に対応したハイスピード HDMI ケーブルをご使用ください。

設定の初期化 (INIT)

本機の各種設定を初期化します。

選択項目

ALL	すべての設定を初期化する。
CANCEL	初期化しない。

ファームウェアバージョンの確認 (VERSION)

本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。

付録

こんな場合の解決方法

下記 Q&A を参考にしてください。

別のスピーカーに交換したら、音のバランスが以前より悪くなった …

スピーカーを交換した場合やスピーカーシステムを変更した場合は、YPAO（自動測定）を実行してスピーカー設定を再調整してください（25ページ）。手動でスピーカー設定を調整する場合は、設定メニューの「スピーカー設定」をご利用ください（48ページ）。

音量が大きくならないようにしたい …

誤って本体やリモコンを操作して突然音量が大きくなると、事故や故障につながる恐れがあります。このような場合は、設定メニューの「音量の上限」で、調節可能な音量の上限値をあらかじめ設定してください（54ページ）。

電源を入れた時の音量を一定にしたい …

初期状態では、電源をスタンバイにしたときの音量設定が、次回電源を入れたときにそのまま適用されます。音量を一定にしたい場合は、設定メニューの「音量の初期値」で、電源を入れたときの音量を設定してください（54ページ）。

入力によって音量が違う …

入力ごとの音量差を補正するには、オプションメニューの「再生レベル補正」をご利用ください（43ページ）。

HDMI コントロールが機能しない …

HDMI コントロールを使うには、HDMI コントロール対応機器どうしの連動設定が必要になります（71ページ）。HDMI コントロール対応機器（テレビ、BD/DVD レコーダーなど）を本機に接続後、各機器の HDMI コントロール設定を有効にしてから、連動設定を行ってください。この設定は HDMI コントロール対応機器を追加するたびに必要です。なお、HDMI コントロールを使ってテレビと再生機器間で操作できる機能については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

入力名を変更したい …

初期状態では、入力名（HDMI1、AV1 など）が前面ディスプレイに表示されます。ほかの名称に変更したい場合は、設定メニューの「入力名変更」（56ページ）で表示名を設定してください。あらかじめ用意されている名称（Blu-ray、DVD など）から選ぶこともできます。

設定変更を禁止したい …

スピーカー設定など、本機の各種設定の変更を禁止するには、設定メニューの「設定保護」をご利用ください（57ページ）。

本機のリモコンを操作すると、別のヤマハ製機器が同時に動いてしまう …

複数のヤマハ製機器をお使いの場合、本機のリモコンを操作すると別の機器が同時に動いたり、ほかのリモコンを操作すると本機が動いたりすることがあります。このような場合は、それぞれのリモコンで各機器を操作するために、リモコン ID が重ならないように設定してください（59ページ）。

本機の入力端子（映像 / 音声）の組み合わせが外部機器と合わない …

「オプションメニュー」の「音声入力」で、本機の入力端子の組み合わせを、外部機器の出力端子にあわせて変更できます（44ページ）。

テレビの映像とスピーカーの音声がずれている …

「設定メニュー」の「リップシンク」で、映像と音声の出力タイミングを調整できます（53ページ）。

テレビのスピーカーから音声を出力したい …

「設定メニュー」の「音声出力」で、本機に入力された音声の出力先を設定できます（51ページ）。

故障かな？と思ったら



ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記をご確認ください。

対処しても正常に動作しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

最初にご確認ください…

- ① 本機、テレビ、再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の電源プラグがコンセントにしっかりと接続されている。
- ② 本機、サブウーファー、テレビ、再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の電源が入っている。
- ③ 各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

電源 / システム / リモコン

症状	原因	対策
電源が入らない	保護回路が 3 回続けて作動した。	製品保護のため電源が入らなくなります。ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。
電源が切れない	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	本体前面の  （電源）キーを 15 秒以上押して本機を再起動してください。（問題が解決しない場合は、コンセントから電源ケーブルのプラグを抜き、再度差し込んでください。）
電源がすぐに切れてしまう	スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れた。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください（19ページ）。
電源が自動的にスタンバイに切り替わる	スリープタイマーが作動した。	もう一度電源を入れて、再生を始めてください。
	操作がない状態で一定時間が経過したため、自動スタンバイ機能が作動した。	自動スタンバイ機能を無効にするには、設定メニューの「自動スタンバイ」を「オフ」に設定してください（55ページ）。
本機が操作を受け付けない	スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が作動した。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください（19ページ）。
	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	本体前面の  （電源）キーを 15 秒以上押して本機を再起動してください。（問題が解決しない場合は、コンセントから電源ケーブルのプラグを抜き、再度差し込んでください。）
リモコンで本機を操作できない	操作範囲から外れている。	操作範囲内で操作してください（9ページ）。
	乾電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください。
	本体のリモコン信号受光部に日光や強い照明が当たっている。	照明または本体の向きを変えてください。
	本体とリモコンの ID が一致していない。	本体側またはリモコン側のリモコン ID を変更してください（59ページ）。
INPUT キーを押しても目的の入力を選択できない。	入力をスキップする設定がされている。	設定メニューの「入力スキップ」で対象の入力を「オフ」に設定します。

症状	原因	対策
リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーが動作しない。	HDMI 接続した機器が RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの操作に対応していない。	RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの操作に対応した機器をご使用ください。
	本機のリモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの設定を変更している。	設定メニューの「リモコンカラーキー」を「初期値」に設定してください (57ページ)。

音声

症状	原因	対策
音が出ない	別の入力を選択されている。	入力選択キーで正しい入力を選んでください。
	本機で再生できない信号が入力されている。	一部のデジタル音声フォーマットは本機で再生できません。入力信号の音声フォーマットは、オプションメニューの「信号情報」で確認できます (43ページ)。
	本機と再生機器を接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
音量が上がらない	音量の上限値が低く設定されている。	設定メニューの「音量の上限」で上限値を調節してください (54ページ)。
	本機の出力端子に接続されている外部機器の電源が切れている。	該当機器すべての電源を入れてください。
特定のスピーカーから音が出ない	再生ソースに該当チャンネルの信号が含まれていない。	オプションメニューの「信号情報」で確認できます (43ページ)。
	該当スピーカーを使用しない音場プログラムやデコーダーが選択されている。	「5ch Stereo」を選ぶことで確認できます (33ページ)。
	該当スピーカーの音声出力が無効になっている。	YPAO を実行するか (25ページ)、設定メニューの「構成」で該当スピーカーの有無やサイズを選んでください (48ページ)。
	該当スピーカーの音量が極端に小さい。	YPAO を実行するか (25ページ)、設定メニューの「音量」で該当スピーカーの音量を調節してください (49ページ)。
	本機と該当スピーカーを接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
	該当スピーカーが故障している。	正常に機能している別のスピーカーと交換することで確認できます。それでも音が出ない場合は、本機が故障している可能性があります。
サブウーファーから音が出ない	再生ソースに低域効果音 (LFE) や低音信号が含まれていない。	確認するには、設定メニューの「エクストラベース」を「オン」に設定して、フロントチャンネルの低音域をサブウーファーから出力してください (49ページ)。
	サブウーファーの出力が無効になっている。	YPAO を実行するか (25ページ)、設定メニューの「サブウーファー」を「使用する」に設定してください (48ページ)。
	サブウーファーの音量が極端に小さい。	サブウーファーの音量を調節してください。
	サブウーファーのオートスタンバイ (自動的に電源を切る機能) が作動した。	サブウーファーのオートスタンバイを無効にするか、動作感度を調節してください。
HDMI で接続した再生機器の音が出ない	テレビが著作権保護 (HDCP) に対応していない。	テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。
	HDMI 入力音声をスピーカーから出力しない設定にしている。	設定メニューの「音声出力」で、「アンプ」を「オン」に設定してください (51ページ)。
	HDMI OUT 端子に接続されている機器の数が制限数を超えている。	使用していない HDMI 機器を取り外してください。

症状	原因	対策
テレビの音声の本機から出ない (HDMI コントロール使用時)	テレビ側で、テレビのスピーカーから音声を出力するように設定されている。	テレビ音声の本機から出力されるように、テレビの音声出力設定を変更してください。
	ARC に対応していないテレビを HDMI ケーブルのみで接続している。	光ケーブルで接続してください。
	(音声ケーブルで本機とテレビを接続している場合) 「TV 音声入力」の設定と、実際にテレビが接続されている端子が異なっている。	設定メニューの「TV 音声入力」で正しい音声入力端子を選んでください (51ページ)。
	(ARC を使ってテレビ音声を入力したい場合) 本機またはテレビの ARC が無効になっている。	設定メニューの「ARC」を「オン」に設定してください (52ページ)。 また、テレビ側で ARC を有効にしてください。
DSD 音声 (SACD プレーヤーなど) を再生してもテレビから音が出ない	DSD 音声の再生中は、その音声をテレビに出力しない仕様です。	PCM で出力するように再生機器を設定してください。
マルチチャンネル再生時にフロントスピーカーからしか音が出ない	再生機器側で、常に 2 チャンネル (PCM など) で出力するように設定されている。	オプションメニューの「信号情報」で信号情報を確認してください (43ページ)。 必要に応じて、再生機器側の音声出力設定を変更してください。
雑音が入る	デジタル機器や高周波機器が本機の近くに置かれている。	本機と該当機器の距離を離してください。
	本機と再生機器を接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
音がひずむ	本機の出力端子に接続されている外部機器の電源が切れている。	該当機器すべての電源を入れてください。
	音量が大きすぎる。	音量を下げてください。設定メニューの「エコモード」が「オン」の場合は、「オフ」に設定してください (55ページ)。

映像

症状	原因	対策
映像が出ない	本機で別の入力を選択されている。	入力選択キーで入力 (ビデオ機器) を選んでください。
	テレビで別の入力を選択されている。	テレビ側の入力を本機からの映像に切り替えてください。
	テレビが非対応の映像信号を出力している。	再生機器側の映像出力設定を確認してください。テレビが対応している映像信号については、テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。
	本機、テレビ、ビデオ機器を接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
HDMI で接続したビデオ機器の映像が出ない	本機が非対応の映像信号 (解像度) を入力している。	入力中の映像信号 (解像度) は、オプションメニューの「信号情報」で確認できます (43ページ)。本機が対応している映像信号については「本機が対応している HDMI 信号」(73ページ) をご覧ください。
	テレビが著作権保護 (HDCP) に対応していない。	テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。
	HDMI OUT 端子に接続されている機器の数が制限数を超過している。	使用していない HDMI 機器を取り外してください。
HDMI 接続した再生機器からの映像 (HDCP 2.2 対応機器が必要なコンテンツ) が表示されない。	テレビ (HDMI 入力端子) が HDCP 2.2 に対応していない。(テレビ画面に注意メッセージが表示される場合があります)	HDCP 2.2 対応のテレビ (HDMI 入力端子) に接続してください。

症状	原因	対策
本機のメニューがテレビに表示されない	本機とテレビが HDMI ケーブルで接続されていない。	本機のメニューをテレビに表示するには、本機とテレビを HDMI で接続する必要があります。必要に応じて、テレビと本機を HDMI ケーブルで接続してください (20ページ)
	テレビで別の入力を選択されている。	テレビ側の入力を本機 (HDMI OUT 端子) からの映像に切り替えてください。

FM/AM ラジオ

症状	原因	対策
FM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る	マルチパス (多重反射) などの妨害電波を受けている。	FM アンテナの高さ、向き、設置場所を変えてください。
	FM ラジオ局から離れた地域で受信している。	オプションメニューの「FM モード」でモノラル放送に切り替えてください (36ページ)。
		市販の屋外アンテナを使用してください。
AM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る	蛍光灯、モーターなどの雑音を拾っている。	環境により雑音を完全に除去するのは困難です。ただし、市販の屋外アンテナを使うと雑音を低減できることがあります。
自動選局ができない	FM ラジオ局から離れた地域で受信している。	手動で選局してください (37ページ)。
		市販の屋外アンテナを使用してください。
	AM ラジオの電波が弱い。	AM アンテナの方向を変えてください。
		手動で選局してください (37ページ)。
AM ラジオ局を登録 (プリセット) できない	自動登録 (オートプリセット) を使用した。	市販の屋外アンテナを使用してください。ANTENNA (AM) 端子に付属の AM アンテナと一緒に接続してください。
		オートプリセットは FM ラジオ局のみが対象です。AM ラジオ局は手動で登録してください (37ページ)。

Bluetooth®

症状	原因	対策
本機と接続機器がペアリングできない。	すでに他の Bluetooth 機器と接続している。	接続中の機器をいったん切断してから、ペアリングしてください。
	距離が離れすぎている。	接続機器を本機に近づけてペアリングしてください。
	2.4GHz 帯の電磁波を発するもの (電子レンジ、無線 LAN 機器など) がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。
	接続機器が A2DP に対応していない。	A2DP に対応した機器とペアリングしてください。

症状	原因	対策
Bluetooth 接続ができない	他の Bluetooth 機器が接続されている。	現在接続中の Bluetooth 機器をいったん切断してから、接続し直してください。
	接続機器の Bluetooth 設定がオフになっている。	接続機器の Bluetooth 設定をオンにしてください。
	ペアリング情報が消えた。	接続機器のペアリング情報を削除して、再度ペアリングしてください (39ページ)。 本機は最大 8 台の接続機器とペアリングできます。9 台目の接続機器とのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古い機器のペアリング情報が削除されます。
	本機が接続機器の Bluetooth 機器リストに登録されていない。	再度ペアリングを行ってください (39ページ)。
音が出ない、または音が途切れる。	接続機器の音量が最小になっている。	接続機器の音量を上げてください。
	接続機器の出力切替が本機に設定されていない。	接続機器の出力切替を本機に設定してください。
	本機と接続機器との Bluetooth 接続が切断された。	Bluetooth 接続を再度行ってください (40ページ)。
	2.4GHz 帯の電磁波を発するもの（電子レンジ、無線 LAN 機器など）がそばにある。	本機を電磁波を発する機器から離して設置してください。
	本機と接続機器の距離が離れすぎている。	接続機器を本機に近づけてください。

前面ディスプレイのエラー表示

前面ディスプレイにエラーが表示された場合は、下記をご確認ください。

メッセージ	内容	対策
Check SP Wires	スピーカーケーブルがショートしている。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください（19ページ）。
Internal Error	本機の内部でエラーが発生している。	ヤマハ修理相談センターに修理をご依頼ください。
Not Found	Bluetooth 機器が見つからない。	Bluetooth レシーバーの 10 メートル以内に Bluetooth 機器を置いてください。 再度ペアリングを実行してください。
RemID Mismatch	本体とリモコンのリモコン ID が一致していない。	本体またはリモコンのリモコン ID を変更してください（59ページ）。

用語 / 技術解説

本書で使用する用語、技術を解説します。

音声に関する用語

■ 音声デコードフォーマット

サンプリング周波数と量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際の情報量を表す数値です。たとえば、48kHz/24bit などのように表現されます。

- ・サンプリング周波数
1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）する回数を示します。この数値が大きいほど再生可能な音域が広がります。
- ・量子化ビット数
音の大きさを数値化するときのきめ細かさを示します。この数値が大きいほど音の強弱変化をきめ細かく再現できます。

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2 オーディオ規格の一つで、モノラル音声から 5.1 チャンネル音声までを効率良く圧縮できる音声フォーマットです。BS/地上波デジタル放送で採用されています。

Dolby Digital

ドルビーラボラトリーズにより開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD ディスクなどで採用されています。

Dolby Pro Logic II

2 チャンネルで記録された音声信号を 5 チャンネル信号に変換する技術です。映画用の Movie モードと、音楽などのステレオソース用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。

Dolby TrueHD

スタジオマスター品質の音声を家庭で再現するために、ドルビーラボラトリーズによって開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。96kHz/24bit 時で最大 8 チャンネル（192kHz/24bit 時は最大 6 チャンネル）のディスクリット音声信号を収録・再生できます。BD（ブルーレイディスク）で採用されています。

DTS デジタルサラウンド

DTS 社により開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD ディスクなどで採用されています。

DTS 96/24

高品質 96kHz/24bit 5.1 チャンネルに対応した圧縮音声フォーマットです。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があります。音楽 DVD など採用されています。

DTS-ES

DTS-ES 方式で収録された 6.1 チャンネル音声の再生方式です。5.1ch 信号に追加して、サラウンドバックチャンネルの音声も出力されます。サラウンドバックチャンネルの信号をサラウンドチャンネル信号に合成して収録するマトリックス方式と、独立した信号を収録するディスクリット方式があります。

DTS Express

DTS Digital Surround フォーマットよりも、さらに高圧縮に対応した 5.1 チャンネル対応の音声フォーマットです。ネットワークストリーミングや BD（ブルーレイディスク）のセカンダリーオーディオなどを目的として開発されています。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS 社により開発された 高品質 96kHz/24bit 7.1 チャンネルに対応した圧縮音声フォーマットです。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があります。BD（ブルーレイディスク）などで採用されています。

DTS-HD Master Audio

スタジオマスター品質の音声を家庭で再現するために、DTS 社により開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。96kHz/24bit 時で最大 8 チャンネル（192kHz/24bit 時は最大 6 チャンネル）のディスクリット音声信号を収録・再生できます。BD（ブルーレイディスク）で採用されています。

DTS Neo:6

2 チャンネルで記録された信号のソースを、6 チャンネル音声に変換する技術です。映画用の Cinema モード、音楽用の Music モードが用意されています。ディスクリット方式で記録されたソースのようなチャンネル分離感を実現します。

DSD（ダイレクト・ストリーム・デジタル）

SACD（スーパーオーディオ CD）などで採用されている、デジタル信号を記録する方式の一つです。2.8224Mbps や 5.6448Mbps の高ビットレートで記録され、CD よりも高音質な再生ができます。収録可能な周波数は 100kHz 以上、ダイナミックレンジは 120dB です。

MP3

MPEG 圧縮技術を使用した音声圧縮フォーマットです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しており、音質を保ったままデータ量を約 1/10 に圧縮できると言われています。

MPEG-4 AAC

MPEG-4 オーディオ規格の一つです。音質を保ったまま、データ量を大幅に圧縮することができます。携帯電話や携帯音楽プレーヤーなどの小容量、高音質が求められる機器や、インターネット上のコンテンツ配信などにも利用されています。

PCM（パルス・コード・モジュレーション）

アナログ音声信号をデジタル音声信号に記録・変換・伝送する方式で、すべてのデジタル音声信号方式の基礎となる技術です。また非圧縮音声フォーマットとして、CDをはじめとしてBD（ブルーレイディスク）などさまざまなコンテンツで採用されており、リニアPCMとも呼ばれています。

WAV

Windows標準の音声ファイルの形式です。デジタル音声信号の保存形式などを規定しています。通常はPCMデータ（非圧縮）が使用されますが、任意の圧縮方式も利用できます。

WMA（Windows Media Audio）

Microsoft社が開発した音声圧縮フォーマットです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しており、音質を保ったままデータ量を約1/20に圧縮できると言われています。

■ その他

リップシンク（Lipsync）

音声と映像の出力タイミングのずれを補正する技術です。映像信号の大容量化にともなう信号処理の複雑化により、音声に対して映像が遅れてしまう症状を補正します。

LFE（低域効果音）0.1チャンネル

音声成分の帯域が20～120Hzの、低音域専用チャンネルです。Dolby Digital、DTS、AACのいずれでも、全帯域用のチャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているため、0.1と表現されます。

HDMI/映像に関する用語

コンボジットビデオ信号

輝度を表すY信号と、色を表すC信号を1つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。

Deep Color

HDMIがサポートしている映像技術です。RGBまたはYCbCr信号の処理を、従来の8ビットに対して10/12/16ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上します。

HDMI

世界業界標準規格であるHDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、デジタルインターフェースです。デジタルビデオ/オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1本のケーブルで伝送できます。また、著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しています。より詳しい情報は、“<http://www.hdmi.org>”を参照ください。

x.v.Color

HDMIがサポートしている映像技術です。色空間規格の1つで、sRGB規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB規格との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。

ヤマハテクノロジー

サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場再生を仮想的に再現する技術です。すべての音場プログラムはヘッドホン用に効果調整されており、自然で立体感あふれるサラウンドをお楽しみいただけます。

シネマDSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）

Dolby SurroundやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

バーチャルシネマDSP

フロントスピーカー2本のみでも、仮想的にサラウンドスピーカーの音場を再現する技術です。サラウンドスピーカーを設置していなくとも、豊かな音場プログラム再生をお楽しみいただけます。

バーチャルシネマフロント

サラウンドスピーカを前方に配置したときに、仮想的にサラウンドスピーカの音場を再現する技術です。サラウンドスピーカを前方に配置しても、サラウンド再生をお楽しみいただけます。

ミュージックエンハンサー

携帯音楽プレーヤーやPCなどで使用される圧縮オーディオフォーマット（MP3、AACなど）で不足しがちな高音域と低音域を拡張・強調する技術です。これにより圧縮オーディオをより音楽的にダイナミックにお楽しみいただけます。

YPAO（Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer）

付属のYPAO用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整する技術です。

対応している機器

本機が対応している機器は、下記をご確認ください。

対応機器

■ Bluetooth® 機器

- A2DP プロファイルに対応した Bluetooth 機器。
- すべての Bluetooth 機器に対する接続を保証するものではありません。

HDMI について

HDMI に関する機能の詳細を説明します。

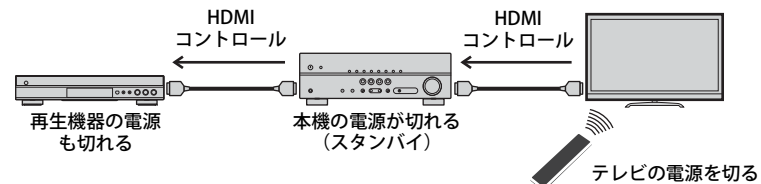
HDMI コントロール

HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます（HDMI コントロール）。また HDMI ケーブルで接続した再生機器（HDMI コントロール対応の BD/DVD レコーダーなど）も操作できます。

テレビのリモコン操作による連動機能

- 電源スタンバイ
- 音量調節および消音
- テレビで内蔵チューナー選択時に、本機の入力をテレビ音声入力に切り替え
- テレビで再生機器を選択時に、本機の入力を再生機器に切り替え（映像をテレビに出力）
- 音声出力機器の切り替え（本機またはテレビ）

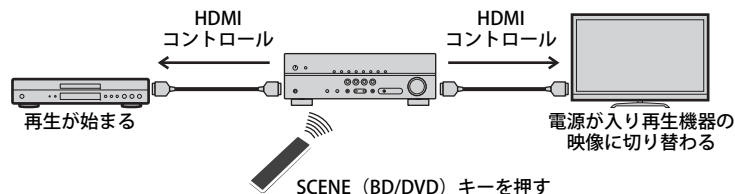
（動作イメージ）



本機のリモコン操作による連動機能

- シーン選択と連動して外部機器の再生開始およびテレビの電源入（30ページ）
- テレビの入力を本機の映像に切り替えて設定メニューを表示（SETUP キー操作時）
- 再生機器（再生機能およびメニュー）を操作

(動作イメージ)



HDMI コントロールを使うには、テレビ、再生機器を接続後に以下の連動設定が必要です。テレビ、再生機器の設定や操作については、各機器の取扱説明書をご覧ください。



・ HDMI コントロール対応の機器を新しく追加するたびに、以下の設定が必要になります。

- 1 本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。
- 2 本機、テレビ、HDMI コントロール対応の再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の HDMI コントロール機能を有効にする。
本機の HDMI コントロール機能を有効にするには、設定メニューの「HDMI コントロール」（51 ページ）を「オン」（初期値）に設定してから、関連項目（TV 音声入力、スタンバイ連動、ARC、シーン連動）を設定します。
- 3 テレビの主電源を切ってから、本機と再生機器の電源を切る。
- 4 本機と再生機器の電源を入れてから、テレビの主電源を入れる。
- 5 テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。
- 6 以下の点を確認する。
本機：再生機器からの HDMI 入力（「HDMI1 ～ 4」のいずれか）に切り替わっている。
ほかの入力が選ばれている場合は、手動で入力を選んでください。
テレビ：画面に再生機器の映像が表示されている。
- 7 テレビのリモコンを使って電源スタンバイ、音量調節などの操作を行い、本機が連動するか確認する。



- ・ HDMI コントロールが正しく機能しないときに、再生機器の電源を入れ直したり、電源プラグを差し直したりすると改善されることがあります。また HDMI コントロール連動機器が制限数を超えて接続されていると正しく機能しないことがあります。この場合は、使用していない機器の HDMI コントロールを無効にしてください。
- ・ 電源のみ連動しない場合は、テレビ側の優先音声出力設定を確認してください。
- ・ HDMI ケーブルを接続し直した場合は、手順 4 以降を再度実施してください。
- ・ HDMI コントロール機能をより有効に利用するために、テレビと再生機器は、なるべく同一メーカーのものを使うことをおすすめします。各メーカーの HDMI コントロール対応機種については、以下のウェブサイトをご覧ください。
http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/

オーディオリターンチャンネル（ARC）

本機からテレビに映像を伝送している HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力することができます。

HDMI コントロールの設定（手順 1 ～ 7）後、以下を確認してください。

- 1 テレビのリモコンでテレビ番組を選ぶ。
- 2 本機の入力が自動的に「AV2」に切り替わり、テレビの音声の本機から出力されることを確認する。
テレビの音声が出力されない場合は、以下をご確認ください。
 - － 設定メニューの「ARC」（52 ページ）が「オン」になっている。
 - － HDMI ケーブルがテレビの ARC 対応 HDMI 端子に接続されている。テレビの HDMI 端子が ARC に対応していない場合もあります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。



- ・ ARC 使用時に音声が途切れる場合は、設定メニューの「ARC」（52 ページ）を「オフ」に設定し、光デジタルケーブルで本機とテレビを接続してください（20 ページ）。
- ・ ARC を使う場合は、ARC 対応の HDMI ケーブルでテレビと本機を接続してください。



- 初期状態では、テレビの音声入力用として「AV2」が設定されています。AV2 端子に別の機器を接続している場合は、設定メニューの「TV 音声入力」(51ページ)でテレビ音声を割り当てる入力を変更してください。また、シーン機能(30ページ)を使う場合は、SCENE (TV) キーの入力設定もあわせて変更してください。

本機が対応している HDMI 信号

音声信号

音声フォーマット	詳細	ディスク (例)
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32-192kHz、16/20/24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	8ch、32-192kHz、16/20/24bit	DVD-Audio、 BD (ブルーレイディスク)、 HD DVD
DSD	2ch ~ 5.1ch、2.8224MHz、1bit	SACD
ビットストリーム	Dolby Digital、DTS、AAC	DVD-Video
ビットストリーム (HD オーディオ)	Dolby TrueHD、 Dolby Digital Plus、 DTS-HD Master Audio、 DTS-HD High Resolution Audio、 DTS Express	BD (ブルーレイディスク)、 HD DVD

映像信号

以下の解像度に対応しています。

- VGA
- 480i/60Hz
- 480p/60Hz
- 576i/50Hz
- 576p/50Hz
- 720p/60Hz、50Hz
- 1080i/60Hz、50Hz
- 1080p/60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz
- 4K/60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz



- 一部の再生機器は、コピープロテクトがかかった DVD オーディオの映像 / 音声を出力できません。
- 本機は HDCP 非対応の HDMI または DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

商標

本書で使用している商標です。



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。




DTS の特許に関しては <http://patents.dts.com> をご覧ください。本製品は DTS Licensing Limited のライセンスに基づき製造しています。

DTS、DTS-HD、それらのシンボルマークおよび DTS とそのシンボルマークの組み合わせは、DTS 社の登録商標です。

©DTS, Inc. All Rights Reserved.



AAC ロゴマーク  はドルビーラボラトリーズの商標です。



HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、米国およびその他の国々における HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

App Store は Apple Inc. のサービスマークです。

Android™ Google Play™

Android、Google Play は、Google Inc. の商標または登録商標です。

x.v.Color™

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。

SILENT™
CINEMA

「サイレントシネマ™ SILENT CINEMA™」はヤマハ株式会社の登録商標です。



Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ヤマハ株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

主な仕様

本機的主要仕様です。

入力端子

- アナログ音声
ステレオ ×3 (AV2 ～ 3、AUX [3.5mm ミニ端子])
- デジタル音声 (対応 fs : 32kHz ～ 96kHz)
光 ×1 (AUDIO1)
同軸 ×2 (AV1、AUDIO2)
- 映像
コンポジットビデオ ×3 (AV1 ～ 3)
- HDMI 入力
HDMI ×4 (HDMI1 ～ 4)

出力端子

- アナログ音声
スピーカー出力 ×5 (フロント左 / 右、センター、サラウンド
左 / 右)
サブウーファー出力 ×1 (SUBWOOFER PRE OUT)
ヘッドホン ×1 (PHONES)
- 映像
コンポジットビデオ ×1 (MONITOR OUT)
- HDMI 出力
HDMI OUT ×1

その他の端子

- YPAO MIC ×1

HDMI

- HDMI 機能 : 4K UltraHD Video (include 4K/60、50Hz 10/12bit)、
3D Video、オーディオリターンチャンネル (ARC)、HDMI コン
トロール (CEC)、オートリップシンク、Deep Color、"x.v.Color"、
HDオーディオ再生、21:9アスペクト比、BT.2020対応、HDR対応
- 映像フォーマット
 - VGA
 - 480i/60Hz
 - 576i/50Hz
 - 480p/60Hz
 - 576p/50Hz
 - 720p/60Hz、50Hz
 - 1080i/60Hz、50Hz
 - 1080p/60Hz、50Hz、30Hz、35Hz、24Hz
 - 4K/60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz
- 音声フォーマット
 - Dolby TrueHD
 - Dolby Digital Plus
 - Dolby Digital
 - DTS-HD Master Audio
 - DTS-HD High Resolution Audio
 - DTS Express
 - DTS
 - DSD 2 ～ 6 チャンネル
 - PCM 2 ～ 8 チャンネル (Max 192kHz/24bit)
 - AAC
- 著作権保護 : HDCP 2.2 準拠
- リンク機能 : CEC 対応

チューナー

- アナログチューナー
FM/AM ×1 (TUNER)

Bluetooth®

Bluetooth バージョン	Ver. 2.1+EDR
サポートプロファイル	A2DP
対応コーデック	SBC
ワイヤレス出力	Bluetooth Class 2
最大通信距離	10 m (障害物が無いこと)

対応デコードフォーマット

- デコードフォーマット
 - Dolby True HD、Dolby Digital Plus
 - Dolby Digital
 - DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、
DTS Express
 - DTS、DTS-ES Matrix 6.1、
DTS-ES Discrete 6.1、DTS 96/24
 - AAC
- ポストデコードフォーマット
 - Dolby Pro Logic
 - Dolby Pro Logic II Music、Dolby Pro Logic II Movie、
Dolby Pro Logic II Game
 - DTS Neo:6 Music、DTS Neo:6 Cinema

オーディオ部

- 定格出力 (2ch 駆動) (20Hz ～ 20kHz、0.09% THD、6Ω)
フロント左 / 右 70W+70W
- 定格出力 (1ch 駆動) (1kHz、0.9% THD、6Ω)
フロント左 / 右 100W/ch
センター 100W/ch
サラウンド左 / 右 100W/ch
- 実用最大出力 (1ch 駆動) (JEITA、1kHz、10%THD、6Ω)
フロント左 / 右 135W/ch
センター 135W/ch
サラウンド左 / 右 135W/ch
- ダイナミックパワー
フロント左 / 右 (6/4/2Ω) 110/130/150W
- ダンピングファクター
フロント左 / 右、20Hz ～ 20kHz、8Ω 100 以上

- ・入力感度 / 入力インピーダンス
AV2 ほか (1kHz、100W/6Ω)200mV/47kΩ
- ・最大許容入力
AV2 ほか (1kHz、0.5%THD、Effect On)2.3V
- ・出力電圧 / 出力インピーダンス
SUBWOOFER1V/1.2kΩ
- ・ヘッドホン出力 / 出力インピーダンス
AV2 ほか (1kHz、50mV、8Ω)100mV/470Ω
- ・周波数特性
AV2 ほか→フロント (10Hz ~ 100kHz)+0/-3dB
- ・S/N 比 (IHF ネットワーク)
AV2 ほか (入力 1kΩ ショート、スピーカー出力)
.....110dB 以上
- ・残留ノイズ (IHF ネットワーク)
フロントスピーカー (スピーカー出力)150μV 以下
- ・チャンネルセパレーション
AV2 ほか (入力 1kΩ ショート、1kHz/10kHz)
.....70dB/50dB 以上
- ・音量可変範囲MUTE、-80dB ~ +16.5dB (0.5dB ステップ)
- ・トーンコントロール特性
BASS (可変幅)±6dB/0.5dB ステップ、50Hz
BASS (ターンオーバー周波数)350Hz
TREBLE (可変幅)±6dB/0.5dB ステップ、20kHz
TREBLE (ターンオーバー周波数)3.5kHz
- ・フィルター特性 (fc = 40/60/80/90/100/110/120/160/200Hz)
H.P.F. (フロント、センター、サラウンド)12dB/oct.
L.P.F. (サブウーファー)24dB/oct.

ビデオ部

- ・ビデオ信号方式NTSC
- ・信号レベル
コンポジットビデオ1Vp-p/75Ω
- ・ビデオ最大許容入力1.5Vp-p 以上
- ・S/N 比50dB 以上

FM チューナー部

- ・受信周波数範囲76.0MHz ~ 94.9MHz
(FM 補完放送対応)
- ・50dB SN 感度 (IHF、1kHz、100% MOD.)
モノ3μV (20.8dBf)
- ・S/N 比 (IHF)
モノ / ステレオ65dB/64dB
- ・歪率 (1kHz)
モノ / ステレオ0.5%/0.6%
- ・アンテナ入力75Ω、アンバランス

AM チューナー部

- ・受信周波数範囲531kHz ~ 1611kHz

総合

- ・電源電圧AC 100V 50/60Hz
- ・消費電力260W
- ・待機電力
HDMI コントロールオフ0.3W
HDMI コントロールオン (無信号時)0.9W
- ・寸法 (幅 × 高さ × 奥行き)435×151×315mm
(脚部、突起物を含む)
- ・質量7.4kg

※この取扱説明書では、発行時点の最新仕様で説明をしております。
最新版の取扱説明書につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードして読みいただけますようお願いいたします。

索引

数字

- 2.1 チャンネルシステム 18
- 2ch Stereo (音場プログラム) 33
- 4K Ultra HD 73
- 5.1 チャンネルシステム 17
- 5.1 チャンネルシステム (バーチャルシネマフロント) 17
- 5ch Stereo (音場プログラム) 33

A アルファベット

- AM ラジオ 36
- ARC (オーディオリターンチャンネル) 21、52、72
- Audio Decoder (前面ディスプレイ表示) 29
- Bluetooth 39
- CINEMA DSP 32
- Decoder Off (前面ディスプレイ表示) 29
- FM ラジオ 36
- HDCP 65、73
- HDMI ケーブル 20
- HDMI コントロール 51、61、71
- (本機が対応している) HDMI 信号 73
- MUTE (ミュート) 13
- SCENE (シーン) 30
- YPAO (Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer) 25

あ行

- アダプティブ DRC 42
- アドバンスドセットアップメニュー 59
- アンテナ 24
- イコライザー 50
- エクストラベース 35、49
- エコモード 55
- エラー表示 (前面ディスプレイ) 68
- オーディオリターンチャンネル (ARC) 21、52、72
- オートプリセット 37
- オプションメニュー 41
- 音場プログラム 32
- 音量差の補正 43
- 音量の上限 54
- 音量の初期値 54

か行

- クロスオーバー周波数 25、48
- 言語設定 58

さ行

- サブウーファー 19、43、48
- サラウンドデコーダー 34、53
- シーン機能 30、52
- 自動スタンバイ 55
- シネマ DSP 32
- 消音 29、54
- スタンバイ連動 51
- ストレートデコード 34
- スピーカーインピーダンス 17
- スリープタイマー 15
- 設定の初期化 60
- 設定メニュー 45
- 前面ディスプレイ (インジケーター) 13
- 前面ディスプレイの明るさ設定 57
- 前面ディスプレイの表示切り替え 29

た行

- ダイナミックレンジ 54
- 多重モノラル音声 42
- デコーダー名 (前面ディスプレイ表示) 29
- テストトーン 50
- トーンコントロール 42
- 同軸デジタルケーブル 20

な行

- 入力名の変更 56
- 入力レベル補正 43
- 入力連動 (Bluetooth) 40
- バーチャルシネマフロント 17、33、49

は行

- 光デジタルケーブル 20
- プリセット番号 (FM/AM ラジオ) 37
- ペアリング 39

ま行

- ミュージックエンハンサー 35

- モノラル受信 36

ら行

- ラジオ局の登録 (プリセット) 37
- リップシンク 43、53
- リモコン ID の変更 59
- レコードプレーヤー 23

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■お客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル
(全国共通) **0570-011-808**

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

■ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様からお寄せいただくよくあるお問い合わせをまとめました。
ぜひご覧ください。

<http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/>

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通) **0570-012-808**

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様
(06) 6649-9340

修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)
*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラクターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪府浪速区難波中1丁目13-17
ナンバ辻本ニッセイビル7F
FAX (06) 6649-9340

*名称、住所、電話番号、URLなどに変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間

製品に添付されている保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1

Manual Development Department
© 2016 Yamaha Corporation

2016 年 1 月 発行 NV-A0
Printed in Malaysia

ZT78780